



Miyagi University of Education

日中基本色彩語の比喩的意味拡張に関する研究
-黒、白、赤、青、黄色のメタファー表現を中心に-

名 前：郭 麗
学籍番号：17012
指導教員：市瀬智紀

平成 31 年 3 月
修士論文

宮城教育大学
大学院教育学研究科
教科教育専攻国語教育専修

論文の要旨

人は自分の感情や感覚などをより生き生きと表すために、常に比喩表現を使う。色彩語は、比喩表現の中でももともと視覚的なものを表すために用いられるが、文化の絶え間ない発展に従って、その使用範囲は広がってきた。日本語と中国語はそれぞれの言語文化の違いによって、基本的な色であっても、その語の指す範囲は必ずしも同じとは言えない。

例えば、「黒」という色彩であるが、中国語は「唱黒臉」というように「黒」が「公正である」という意味を持っているが、日本語の「黒」にはこの意味がない。その逆に、日本語には「黒星」で「失敗する、負ける」という意味があるが、中国語にはそのような意味はない。そのほかにも、派生、転用した意味、比喩的象徴的な意味には、大きな違いがあるかもしれない。

このように、日本語と中国語の色彩語にはそれぞれ固有の意味があり、また、独自に変遷し、社会制度、生活様式、風俗習慣などの違いに基づいて、認識に対する違いが生じたり、比喩表現を通じて色彩の元の視覚領域を超え、様々な意味をもたらしたりしていると考えられる。

本稿では、基本色彩の「黒、白、赤、青、黄色」をとりあげ、それらの色彩語は日中両言語でどのような意味があるのか、日本語と中国語はどのような差異が見られるか、および色と意味をどのように関連付けるのかについて課題を設定した。分析の過程は、主に色彩語の意味、品詞、意味傾向（ポジティブとネガティブ）、色彩語の歴史的意味変遷および語義と色相の関連性の五つの視点から分析を行った。意味は主に色を表す基本義と色を表すこととは別の意味がある場合と全く色を表さない場合である拡張義とに分けた。

最初は、先行研究に基づき、意味拡張、比喩、メタファーの理論にもとづき、比喩の本体と目標の喩体の間に類似性があり、色彩語の意味と対応する色の間にもなんらかの関連性があることがわかった。

次に、中国語の「黒、白、赤、青、黄色」に関する色彩語の意味分析を行った。中国語の色彩語の意味分析は中国語の辞書『現代汉语词典』と『古代汉语词典』から固有の意味を確定し、中国語のコーパス『現代汉语语料库』と『北京语言大学 BCC 汉语语料库』から例文を選択した。辞書とコーパスを合わせて分析を行った。

さらに、日本語の「黒、白、赤、青、黄色」に関する色彩語の意味分析を行った。日本の色彩語の意味分析は日本語の辞書『スーパー大辞林 3.0』『新明解国語辞典』『日漢大辞典』から固有の意味を確定し、日本語のコーパス KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」から例文を検索し、辞書とコーパスを合わせて分析を行った。

最後に、各色彩に分けて、日本語と中国語の意味を比べ、樹形図を作成して、色彩語の意味と色彩の関連づけを試みた。

以上の分析を通して、以下のような結論が得られた。

(一) 語義について

1、「黒、白、赤、青、黄色」に関する色彩語の拡張意味の数について、全体的に

中国語の方は意味が広い。日本語の方はより単純である。そして、日中重なる意味は多いが、それぞれ異なる意味も存在する。

- 2、例文の分析に通じて、中国語と日本語の色彩語も辞書の意味を超えた意味が存在している。このような辞書以外の意味はことわざや慣用句でよく見られる。例えば、「黒」について、中国語の慣用句「白发送黑发」の「白」と「黒」はそれぞれ「お年寄りの人」と「若い人」を指すが、このような意味は辞書には無い。日本語の「黒歴史」の「黒」は「恥」を意味するが、辞書には見られない。
- 3、日本語も中国語も、慣用句やことわざにおける色彩語の意味はほとんど比喩的意味である。
- 4、一つの色彩で、言語表現において、ポジティブな意味とネガティブな意味両方もあることがよく見られる。また、正反対の矛盾する意味もある。
- 5、日中基本色彩語の基本義（色だけを表す）は、ほぼ同じであるが、「青」について、中国語では普通「緑」を表すと見なされ、日本語では「ブルー」と「緑」の意味が両方使われ、限界は曖昧だと見える。
- 6、色彩語の意味は文脈によって意味が変わることがある。
- 7、日本語と中国語も外来文化の影響により、色彩語の意味が広がっている。例えば、英語の「red card」は中国語の「紅牌」、日本語の「レッドカード」に訳され、それを代表する「警告」の意味も共に伝わって来ている。

(二) 色と意味関連について

- 1、色彩語の比喩的意味は自然と環境と深く関連している。例えば、「黒」は「光がない」を通して、人の人生や生活に転じると、「絶望」や「悲しみ」のようなメタファー的意味になる。「白」の「汚れがない」は人に転じると「純粹」「無罪」の意味になる。
- 2、色彩語の比喩的意味は、作物の色から転じてきたのが多い。特に「赤」「青」「黄色」は季節によって作物の色が違うから、作物の成熟程度を色で表す。そして、人に比喩する。例えば、「青」は作物がまだ未成熟の状態のため、人に転じると「若い、経験がない」の意味に比喩する。このように、人に転じると、色彩語は全く色を表さない。
- 3、色彩はよく身体表現と共起し、人の心理活動を表す。例えば、中国語の「黒脸（怒るや怖がるなど）」「白脸（怖がる）」「眼红（嫉妬する）」「脸红（顔が赤くなる）」などがあり、日本語の「顔が赤くなる」「顔色が青ざめる」などがある。
- 4、色彩語の意味は時代性が見られる。中国の歴史上皇帝を象徴する「黄色い」は現在その意味がなくなり、日本語の共産主義を意味する「赤」も使わなくなった。今後はもっと新しい意味が生じたり、古い意味が使わなくなったりする可能性があると考えられる。

このように、「黒、白、赤、青、黄色」に関する色彩語の日中間での拡張を研究することによって、比喩の本体と目標の喩体の間に類似性と、色彩語の意味と対応する色の間の関連性を明らかにすることができた。

目次

序論	1
第一章 先行研究	4
第一節 言語学における基本的色彩語の分類	4
第二節 研究理論の枠組み	5
第三節 色彩語に関するメタファー表現の研究現状	8
第四節 日本語教育におけるメタファー能力の研究現状	11
第二章 中国語における色彩語の意味分析	12
第一節 「黒」の意味分析	13
2.1.1 「黒」の基本義	13
2.1.2 「黒」の拡張義	14
第二節 「白」の意味分析	21
2.2.1 「白」の基本義	21
2.2.2 「白」の拡張義	22
第三節 「紅」の意味分析	28
2.3.1 「紅」の基本義	28
2.3.2 「紅」の拡張義	28
第四節 「青」の意味分析	36
2.4.1 「青」の基本義	36
2.4.2 「青」の拡張義	36
第五節 「黄色」の意味分析	41
2.5.1 「黄色」の基本義	41
2.5.2 「黄色」の拡張義	41
第三章 日本語における色彩語の意味分析	48
第一節 「黒」の意味分析	48
3.1.1 「黒」の基本義	48
3.1.2 「黒」の拡張義	49
第二節 「白」の意味分析	52
3.2.1 「白」の基本義	52
3.2.2 「白」の拡張義	53
第三節 「赤」の意味分析	56
3.3.1 「赤」の基本義	56
3.3.2 「赤」の拡張義	57

第四節 「青」の意味分析	60
3.4.1 「青」の基本義	60
3.4.2 「青」の拡張義	61
第五節 「黄色」の意味分析	63
3.5.1 「黄色」の基本義	63
3.5.2 「黄色」の拡張義	64
第四章 日中色彩語の比喩的意味比較	67
結論	77
参考文献	79

序論

一、研究の背景と問題提起

人は自分の感情や感覚などをより生き生きと表すために、常に比喩表現を使う。比喩表現の中でも色彩語はもともと視覚的なものを表すために用いられるが、文化の絶え間ない発展に従って、色彩語の使用範囲も広がってきた。ところで、日本語と中国語はそれぞれの言語文化の違いによって、基本的な色であっても、その語の指す範囲は必ずしも同じとは言えない。

例えば、「黒」という色彩語であるが、中国語には「唱黒臉」すなわち「公正である」という意味を持っているが、日本語の「黒」にはこの意味がない。その逆に、日本語には「黒星」で「失敗する、負ける」の意味があるが、中国語にはそのような意味はない。派生、転用した意味になると、比喩的象徴的な意味には、さらに大きな違いがあるかもしれない。

中国人は古い時代から今日に至るまで「紅」が好みの色なので、結婚や伝統的な祭りなどでいつも赤色の飾りをしている。そのため、中国人にとって、「紅」というと必ずおめでたいことのイメージがある。ところで日本語の「赤」は「血」の色なので、日本では「赤い」と言ったら、「血」のイメージをするのが普通である。このような色彩に対するイメージの差異をもたらした原因は日中両国の風俗や習慣の違いではないかと思われる。

このように、日本語と中国語の色彩語にはそれぞれ固有の意味があり、また、独自に変遷し、社会制度、生活様式、風俗習慣などの違いに基づいて、認識に対する違いが生じたり、比喩表現を通じて色彩の元の視覚領域を超え、様々な意味をもたらしたりしていると考えられる。

色彩語の比喩的な意味拡張については、これまで多くの研究が行われている。例えば、新妻（2013）は、心的状態を表す英語の色彩語メタファーを考察し、色彩語メタファーに関して英語と日本語で差異が生じる原因として、色彩のイメージが国・文化・個人などによって異なり、また、英語と日本語の言語システムが異なるからであると結論づけている。例えば、怒りという心的状態を表現するのに、英語では多種の色彩語メタファーが例に挙げられるが、日本語は「かんかんになって怒る」などのようなオノマトペによって怒りの状態の詳細を表現する。日本語と英語の言語的特徴の違いや品詞による表現の分類について、詳細に分析する必要があると述べている。

また、王軒（2014）は、基本色彩語「黒い」と「白い」を含むメタファー表現を考察し、その特徴と非基本色彩語「バラ色」と「灰色」を含むメタファー表現の特徴の相違点を検討した。その結果、「黒い」と「白い」の共起語はほとんど人の感情表現と人の行動、「バラ色」と「灰色」の共起語は「人生、未来、生活、世界」のような抽象物であると述べた。また、基本色彩語は「曖昧性」と「ある程度の一貫性」の特徴があり、非基本色彩語は「一時性」「曖昧性」「可変性」と「ある程度の一貫性」の特徴が見られると結論づけていた。しかし、派生したメタファー表現の意味の拡張、生産性及び創造性については、論じていない。

数多くの先行研究には、次の問題点があると思われる。これまで多くの先行研究では、人は「黒」と「白」のメタファー表現を研究しているが、ほかの基本色彩語、例えば「赤」、「黄」、「青」、「緑」などについてはまだ研究が十分ではない。また、色彩語の意味を巡って、色彩語の意味拡張（意味拡張とは語の最も根本的な意味が比喩などを通じていくつかの派生の意味を生じる過程である。派生意味も拡張意味と呼ばれている）を論じる研究が主流となっている。例えば、蘇紅（2013）は『大辞林』第3版、『岩波国語辞典』第7版、『新明解国語辞典』第7版、『三省堂国語辞典』第7版、『集英社国語辞典』第3版、『学研現代新国語辞典』第5版の辞典を通じて、中国語の「紅、白、黒、黄」と日本語の「白、黒、赤、黄色」の意味の差異を比較している。その結果、伝統的な辞書意味を超えた比喩的な意味になると、例文と解釈が少なくなり、色彩語の多義性をうまく説明できなくなることで、拡張意味と基本義との関連性が不鮮明になることを指摘している。蘇紅（2013）は「色彩語の日中対照研究」の論文で「黄色い声」という例を出したが、日本人はこの表現を見て意味がすぐ分かるが、外国人の日本語学習者にとっては非常に抽象的な表現であると思われる。この「黄色い声」は聴覚を表すはずなのに、色を表す「黄色い」の視覚で表したのはなぜだろうか、どのような関連性があるのかについては論述されていない。

さらに、日本語は外来文化に深く影響を受けたため、外来語が多い。色彩を表す外来語ブラックやホワイトなどを含む表現が少なくない。例えば、英語の「black humor」による「ブラックユーモア」の「ブラック」は人の気分を悪くする意味である、「red card」による「レッドカード」の「レッド」は警告の意味である。以上の二つの外来語の色彩語があるが、その意味も比喩的な意味である。しかし、これまでの研究では、外来語の色彩メタファーについてはまだ言及されていない。

最後に、日本語と中国語の色彩語の拡張意味には相違点があるのは、日中両国の人が色彩に対する認知に差異が存在しているからではないだろうか。例えば、日常生活でよく聞こえる「信号が青になりました」の「青」、信号をみれば、色は「緑」なのに、「青」と呼ばれている。「青」は一体「緑」と「ブルー」のどちらを指すかが疑問である。

二、研究の方向

そこで、本稿では研究の目的は主に三つある。

一つ目は、メタファーとは2つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、本来は一方の事物、概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩であるが、色彩語の基本義、つまり色を表す意味とその拡張した意味、比喩的な意味の間にはどのような関連性が見られるかを検討していきたい。

二つ目は、中国の「現代中国語コーパス」と日本の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」から例文を選出し、対照的に分析しながら、日中色彩語（黒、白、赤、黄、青）が色を表す他に、それぞれが拡張された、色を表さない意味にはどのような異同点があるのかを分析したい。

三つ目は、違う社会文化の背景のもとで生活している日中両国間で色彩に対する認知について差異があるかどうかを検討したい。

三、全体の予告

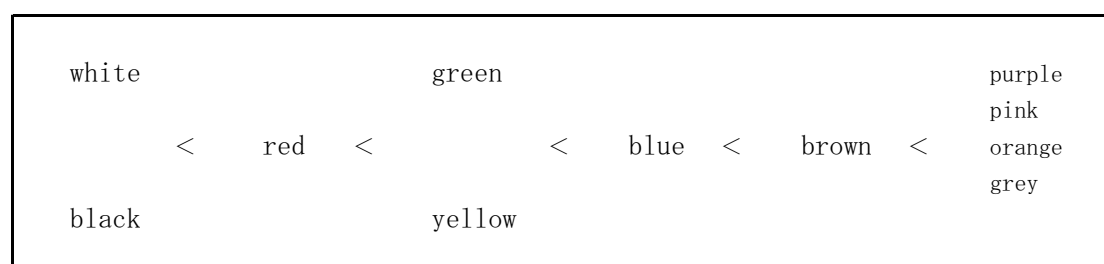
本稿ではまず第一に例文を分析しながら、中国語と日本語の色彩語「黒、白、赤、黄、青」の基本義と拡張意味をそれぞれ分析する。そして、それぞれの日中意味の異同点を比較する。第二に、中国語と日本語それぞれの基本義と拡張義の間の関連性を見出す。第三に、色彩語の比喩的意味からどのような特徴が見られるかを分析する。

以上のような研究によって、中国語と日本語の基本色彩語の意味拡張の異同点と関連性を明らかにすることができると考えている。

第一章 先行研究

第一節 言語学における基本的色彩語の分類

事物の色彩を表す色彩語は、視覚から入った無限の情報を有限の語で表すという点で、文化人類学、心理学など様々な分野から関心を集めてきた。基本の色彩語については、Berlin and Kay (1969) の研究を出発点としている。Berlin and Kay (1969) は、色彩を表す語の中から、white, black, red, green, yellow, blue, brown, purple, pink, orange, grey の11語を基本語とし、多くの言語における色彩語の数、各色彩語の焦点となる色とその色の範囲について調査した。その結果、言語によって基本色彩語の数は異なるものの、その数と種類には次のような相関性があると主張した。



Berlin-Kay (1969)

すなわち、言語ごとに基本の色彩語の数は違うが、すべての言語は最低2つの white、black に相当する基本色彩語があり、3つの場合には white、black、red、4つの場合には、ここに green または yellow のいずれかが加わり、5つの場合には green、yellow の両方とも入る。基本色彩語が6つの場合には blue、7つの場合には brown、8以上であれば purple、pink、orange、grey のいずれかが加わる、というように世界の色彩語の種類と数との相関を系統立てたものである。

日本語に当てはめてみると、基本の色彩語は「-色」を付けずに単体で形容詞として使用できる「白、黒、赤、青」の4色が基本色彩語だと考えられる。中国では「青・赤・黄・白・黒」の五色を「五色」または「五正色」と言い、五行思想（中国の古い哲学）と対応させるため、中国語の基本色彩語は「青、紅、黄、白、黒」の五色が基本色彩語だと考えられる。

第二節 研究理論の枠組み

色彩語は、たいていはメタファーによってできたとする説がある。例えば、「red」は印欧語では、「blood」「saffron」を表したという。「赤色」が「血」「日」などと結び付けられるのは想像に難くない。メタファーはどのようなものであろう。この節は先行研究に基づいてメタファーの概念について論じたいと思う。

片岡宏仁(2012)は、意味の拡張を自然化された拡張、確立された拡張、その場限りの拡張の三つに分けている。自然化された拡張は歴史的には拡張された意味とみて間違いないものも、その言語の一部として定着して非常になじみ深いものとなったため、話し手にはもはや比喩が関わっているとは全く感じられなくなっているとしている。確率された拡張は読みの中には、しっかり確立されていて、おそらくは心的辞書の項目になっていながらも、比喩だと感じられるもの、その場限りの拡張は心的辞書に項目がない読みのことである。従って、こうした読みは「辞書引き」をしようがないが、隠喩や換喩と言った意味拡張の方略を使って生成して解釈できると述べている。

松本(2003)はメタファーとは、「2つの事物・概念の何らかの類似性(similarity)に基づいて、本来は一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩」を指すものであるとしている。例えば、

「君の瞳はダイヤモンドだ。」

のように、「君の瞳」の〈キラキラ輝いている、高級感がある〉という特徴が「ダイヤモンド」と類似していることに基づいて成り立っている表現である。ここでの「類似性に基づく」という意味は、2つの事物・概念に類似性が内在しているというよりも、人間が2つの対象の間に主体的に類似性を見出すことを表していると捉える。

さらに、句レベルでのメタファーに基づく意味拡張の例を見てみよう。

「足を洗う」

という句には、〈足の汚れを水で落とす〉という字義通りの意味と、〈好ましくない仕事や行為をやめる〉という慣用句としての意味、すなわち慣用的意味かがあがる。この2つの意味には、〈好ましくない物事を自分の身から遠ざける〉というような共通点がある。この共通点に基づいて、慣用的意味は字義通りの意味からメタファーによって成り立っていることになる。

次に、Langacker(1987, 1999)の考察から、メタファーを成り立たせる認知的基盤について見てみる。2つの事物・概念の類似性に基づくメタファーの基盤となる最も基本的な認知能力は、私たちのもつ2つの対象を「比較する」という能力である(松本 2003)。ここで、比較とは、2つの対象をある観点から観察・分析することによって、両者の共通点および相違点を明らかにすることである。では、2つの対象を比較して類似していると判断するプロセスにおいて、私たちは何に注目している

のだろうか。谷口（2006）は類推（類似性に基づく推論）について類似性に大きく分けて次のようなレベルがあることが示されている。

- a. 対象レベル:モノの属性
- b. 関係レベル:モノとモノの関係

谷口（2006）はこの2種類の類似性を例示するために、Chicken（ニワトリ）を挙げている。次のように、Chicken は文化によって異なる比喩的用法を持つとしている。

Chicken（ニワトリ）：

- a. 臆病者（英語など）
- b. プレイボーイ（イタリア語）

a は、ニワトリという一種の「モノ」（個体）の属性に着目した類似性であるため、対象レベルの類似性といえる。一方、b は、ニワトリが「雄鶏1羽・雌鳥複数」という割合で飼われることに由来している。つまり、個々のニワトリと比べての類似性ではなく、「雄1・雌多数」という関係性が類似しているのである。

また、松本（2003）は2つの事物の外界における隣接性、さらに広く2つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表す比喩をメトニミーと定義されている。例えば：

「彼女はシェイクスピアを買った。」

のように、「シェイクスピア」という「作者」とその人の「作品」という近接関係に基づく比喩である。この場合「シェイクスピア」という人を「買った」わけではなく、シェイクスピアの書いた「作品」を指していることが分かる。

また、松本（2003）はメトニミーの基盤となる認知能力として、ある対象を把握したり指示したりする際、その対象を直接把握するのに何らかの困難を伴う場合に、別のより把握しやすいものや、あるいはすでによくわかっているものを参照点として活用し、本来把握したい対象を捉えるという参照点能力が考えられる。参照点は把握すべき問題の対象よりも把握しやすい、際立った存在であり、人間である私たちにとって、人間が他のものと比べて様々な意味で重要かつ際立った存在であるということが基盤になっていると指摘されている。例えば：

原因と結果

- a. 赤面する（原因:恥ずかしい）

a の「赤面する」は、ただ単に顔が赤くなることを意味するのではなく、顔が赤くなるという状態を引き起こす原因である。「恥ずかしい」という感情を指示している。因果関係という時間的順序から見て、互いに接近した2つの出来事や状態を表しているといえる。

ところで、Lako & Johnson(1980)の “Metaphors We Live By” は、概念メタファーと呼ばれる認知プロセスを提案している。彼らは、「メタファーの本質はある事柄を他の事柄を通して理解し経験することだ」と解釈し、「概念メタファー理論」を提唱した。それによると、人間の概念体系は根本的にメタファーによって構造を与えられ、規定されている。概念体系の中に概念レベルのメタファーが存在しているからこそ、言語レベルのメタファー表現が可能であると述べた。彼らはメタファーを「ある概念を別の概念と関連づけることによって、一方で他方を理解する」という認知プロセスとして広く捉え直したのである。これは、私たちが抽象的・主観的な対象を理解する場合、日常的で具体的な経験に基づく概念によって理解しているというプロセスである。その結果、私たちの概念体系の中には、ある具体的な概念と別の抽象的な概念との間の対応関係が生まれ、その概念と概念の対応関係を概念メタファーと呼んだのである。また、その概念に関して、喩えるものを起点領域、喩えられるものを目的領域と名づけた。一方、Lakoff & Johnson(1980)では概念メタファーを「目的領域 IS 起点領域」と表記している。例えば、次のような例を見てみよう。

「議論は戦争である。」

このメタファーは〈戦争〉という起点領域から〈議論〉という目的領域への写像である。概念メタファーでは常にこのような概念領域の移行が伴っているとされるしており、先述で見てきたような類似性は問題にならない。次に、例えば「恋愛は旅である」という概念メタファーについては、次のように解釈できる。

「恋愛は旅である」

起点領域：空間(移動)

目標領域：恋愛

イメージ・スキーマ：「起点 - 経路 - 終点」のイメージ・スキーマ

我々は、起点領域である空間移動の「起点」、「経路」、「終点」を、それぞれ恋愛の「出会い」、「過程」、「結婚」といった部分に写像させるのである。

Sweetser(1990)は、視覚表現の意味拡張について通事的に研究し、次のような概念メタファーによって成立したと述べている。

◆ 視覚表現の成立に関するメタファー

a、Vision is Physical Touching/Manipulation.

(見えることは物理的な接触、操作である)

b、Visual Monitoring is Control.

(視覚的観察は支配である)

視覚表現は、知識や知性、心的視覚のようなより抽象的なものを表すために用いられることもある。Sweetser はそのような拡張が概念メタファーを介して成立したと考える。

◆ 視覚表現の意味拡張に関わるメタファー

a、Knowledge and Intellect are Physical Sight.

(知識や知性は物理的視覚である)

b、Mental Vision is Physical Vision.

(心理的視覚は物理的視覚である)

どちらの場合も具体的な外的領域から、より抽象的な内的領域へと意味が拡張している。

以上の先行研究から、メタファーについて、主には物事の類似性によるメタファーと認知プロセスによる概念メタファーの二つに分けている。この二つの理論は大きな違いがある。ただし、二つの物事の類似性にしよう、一つの方法で他の概念を理解するにしよう、メタファーの最も大きな特性は、ある語の本来の意味から別の意味へと移ることである。色彩語のメタファー表現の場合は、「色」が類似点の焦点だと考えられる。

第三節 色彩語に関するメタファー表現の研究現状

今日まで色彩語に関する研究は少なくないが、英語の色彩語の研究が盛んになってから、日本語や中国語などの言語における色彩語の研究も近年多くなって来た。

新妻(2013)は認知意味論に基づいて、心的状態を表す英語の色彩語メタファーを検討した。新妻は英語の色彩語メタファーの中で、心的状態を表す表現の例を挙げている。

(1) black

be [go] black in the face 怒る

(2) blue

a. blue devil 憂鬱、心の抑圧

b. blue in the face (激しい怒りで) 顔が青くなる

c. feel blue 憂鬱になる、意気消沈する

(3) brown

a. brown off (米俗) 誤りを犯す、(英俗) うんざりさせる、困らせる

b. be in brown study 物思いにふける

(4) green

a. green-eyed 妬ましい

b. look through green glasses 妬む

c. green in [around] the gills 恐怖などで青ざめて

(5) pink

tickled pink 大喜びする

(6) red

a. see red 急に怒りを覚える

b. red blooded 勢力旺盛な、元気いっぱいの、男性的な

c. red face / red-faced 当惑した状態/(当惑、怒りで) 赤面した

(7) white

a. white at the lips 激怒して、怖がって

b. white-livered 臆病な

(8) yellow

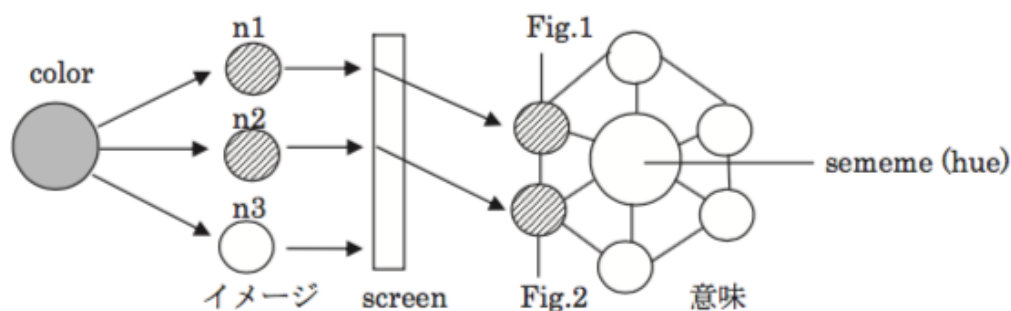
- a. wear yellow stockings 妬む、嫉妬する
- b. yellow-livered 臆病な

上記の例から怒りを表す表現を取り上げてみると、(1) be [go] black in the face, (2b) blue in the face, (6) see red, (7a) white at the lips という4つの色彩を用いた表現がある。色彩語メタファー表現が、色彩を構成する知識(特に色彩から喚起される感情の集合体)と、目標領域となる抽象的な概念を構成する要素の中から知覚された類似性に基づいて成立していると考えれば、異なる色彩から類似する感情表現が生じる。black と white は正反対のイメージを持つ色であるといえるため、どちらも怒りを表すメタファーとなりうるためには何らかの動機付けが存在するはずであると述べている。

また、新妻が挙げた例文からみると、もう一つのところに注目すべきであると思われる。それは、国や文化によって、色彩に対するイメージが異なる場合もあるということである。例えば、(4) の green について、英語には「green-eyed 妬ましい」の表現と意味があるが、「妬ましい」という意味に関して、中国語にはいつも「眼紅」(目が赤くなる)で表す。「眼緑」(目が緑色になる)の表現がない。ここから、違う言語で、色彩語に対するイメージには共通点もあれば、相違点も存在していると考えられる。

新妻は色彩語のイメージを associations(連想)と symbols(象徴)という点で捉え、次のように述べていた。色彩の象徴は必ずしも言語表現に見出されるとは限らないとすると、色彩を構成する知識と色彩の持つイメージ、色彩語の意味とはどのような関係があるのだろうか。(1)～(8)の例を見ても、色彩の持つイメージと言語表現が完全に一致しているわけではないことは明らかである。さらに、その色彩を構成する知識と色彩の持つイメージ、色彩語の意味の関係性が、英語と日本語で言語表現に差異が生じる根拠になりうるのだろうかと述べた。

須賀川(1999)は色彩のイメージと意味連鎖について、次のような図によって説明していた。



『英語色彩語の意味と比喩』135 ページ

図によると、イメージには中心がなく、n1、n2、n3 のような数個のイメージが並んでいる。Screen はイメージが意味へ転換するときに投射されるものである。イメージの n1、n2、n3 は、スクリーンを通してそれぞれの意味の Fig.1、Fig.2 に投影

される。そして、このイメージが不定数であり、国・文化・個人などによって変わることがありうるとされている。一方投影された側において、Sememe は中心的意味を表している。中心的意味となる色相があり、その周りに比喩的意味が連鎖している。

また、坂本・内海（2007）は、色彩形容詞と名詞の相互作用による色彩形容詞メタファーの認知効果で次のように述べた。

形容詞メタファーの研究については、どのモダリティ¹の形容詞がどのモダリティの名詞を修飾しやすいかという共感覚²メタファーの方向性に関する調査を主眼とした研究がほとんどである。直接身体で感じられる触感や味覚など低次の感覚モダリティの形容詞は視覚や聴覚などの高次の感覚モダリティの名詞を修飾できる（例えば：柔らかい色、甘い声）が、その逆は成り立ちにくい（例えば：明るい味

（×）、うるさい味（×））。これは認知的に普遍性がある事実である。形容詞メタファーの中でも特に「黄色い声」のような色彩を表す形容詞から作られたメタファーの意味について、従来の共感覚メタファーの研究によれば、高次の感覚モダリティである視覚に基づく形容詞から作られるメタファー表現は成り立ちにくいものとして研究対象からはずされることになる。しかし、“黄色い声”のような慣習的メタファーや“赤い疑惑”や“赤い運命”といった一連のドラマのタイトルにみられる創造的メタファーから示されるように、色彩形容詞メタファーは確かに用いられている。また、英語にも色彩を用いた慣習的メタファーである“black mood”という表現があることから色彩形容詞メタファーには認知的普遍性もうかがわれる。

色彩語を用いたメタファーについての先行研究では、善が白で表され、悪が黒で表されるといった普遍性がある象徴的現象が指摘されている。その一方、文学作品の調査に基づき色に与えられてきた象徴的な意味の由来を考察している富家（1969）、色彩語のメタファー的意味を通時的観点から扱っている須賀川（1999）など、時代や文化による差異に着目した色彩象徴に関する研究もある。これらの先行研究では、“潔白”“腹黒い”など色彩語が抽象的な概念を象徴的に表す現象を扱い、色彩語自体のメタファー的な意味を考察することが主眼である。

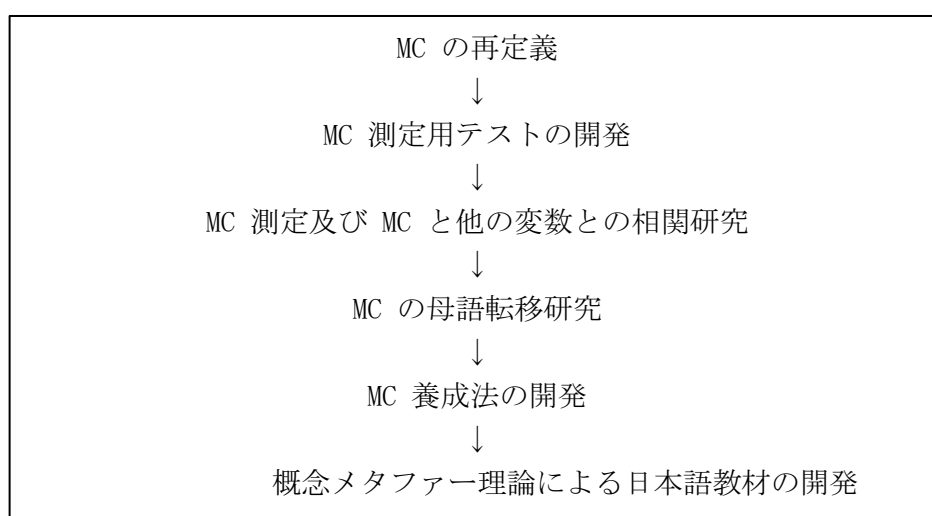
董、劉（2009）は、認知意味的アプローチを用いて、新聞や雑誌の書き言葉コーパスをもとに文章表現に注目し、色彩を表す中国語の「白・黒」が色彩ではなく性格、態度など抽象的な概念を意味したり（メタファー）、部分または全体との置換関係などを表したり（メトニミー）、類と種の関係を示したり（シネクドキ）する例を分類し、記述した。言葉の形式的な意味の背後にある言語主体の認知と運用のメカニズムを明らかにし、「白・黒」の多義性を可能とする言語主体の創造的な知識を中国語教育に生かす方法について提案している。

¹ モダリティ：文によって表された事態に対する話し手の判断や認識。また、それを表す文法的範疇。日本語では「だろう」「かもしれない」、英語では may, can, must などによって表される。

² 共感覚：ある一つの刺激が、それ本来の感覚だけではなく、別の感覚をも同時に生じさせる現象。例えば、「暖かい色」は触覚の表現が視覚に用いられた。

第四節 日本語教育におけるメタファー能力の研究現状

概念メタファー理論の発展にともない、メタフォリカル・コンピテンス(MC)³に関する研究が盛んになってきた。最も早くからメタフォリカル・コンピテンス(MC)という言葉を使った研究としては、Gardener & Winner(1978)、Pollio & Pickens(1980)及び Pollio & Smith(1980)が挙げられる。彼らの研究では MC は概ね、子供のメタファー表現への理解力、メタファー表現の有効性についての説明力、新しいメタファー表現の産出力、更に、新しいメタファー表現の使用嗜好などを指していた。その後、Trosborg(1985)は、初めて第二言語学習者を対象に MC 発達について測定し、MC という概念を第二言語習得の分野に導入することを試みた。その後、東(2006)では、MC の定義として、(1)メタファー表現を認識する力、(2)メタファー表現を理解し運用する力、(3)メタファー表現を味わえる力を掲げている。鐘(2012)はメタフォリカル・コンピテンス(MC)は、言語学習の各方面に深く関わり、言語能力やコミュニケーション能力に加えて重要視されるようになった。それゆえ、MC についての研究も重要で有意義な課題だと述べた。また、彼は従来の MC 研究には次の問題点：(1) 考察対象の不十分さ；(2) 測定法の未統一；(3) 関連研究の不十分さ；(4) 母語転移研究の不足を述べ、また、MC は日本語学習者にとっても極めて重要な能力であり、MC 研究は日本語教育にも多くの示唆をもたらしてくれると述べた。そして、日本語教育への MC 研究を導入する構想を次のように提出した。



以上の先行研究を見て分かるように、英語の色彩語のメタファー的意味は他の言語と比べて、先行して研究が開始されたが、日本語と中国語の色彩語はまだ十分ではないと考えられる。特に意味と色の関連性の研究が不足している。本研究は以上の研究の理論と先行研究に基づいて、日中色彩語「黒、白、赤、青、黄色」の基本義(色を表す)とその拡張義(派生した意味、比喩的な意味)と類似性を検討していきたい。

³ メタフォリカル・コンピテンス(MC):メタファー表現を識別、理解、産出する能力を指す。

第二章 中国語における色彩語の意味分析

本章は中国語における色彩語を基本義⁴と拡張義⁵にわけてそれを明確にする。先行研究の蘇紅(2013)は、色彩語を「色を表す意味」とその拡張した「色を表すと共に別の意味も表す意味」と「色を表さない意味」の3つに分類している。まず、「色を表す」は色彩語として、ある色相を表す場合で、それには、その語が有する中核的象徴的な色相を指すものと、その語が広く含意する色相をさすものがある。「色を表すと同時に別の意味をも表す」はその色を少なからず帯びつつ、しかも色だけではなく、なんらかの別の意味をも表す場合を指す。「色を表さない」は色彩語でありながら、まったく色と関係がない場合である。本論文でも例文を分析しながら、日中色彩語の「色を表す意味」とその拡張した「色を表すと共に別の意味も表す意味」と「色を表さない意味」をそれぞれ明確したい。

中国語の色彩語の表記は名詞のみにとどまらず、形容詞としても使われるので、「黒、黒的、黑色、黑色的」「白、白的、白色、白色的」「赤、紅、红的、红色、红色的」「青、青的、青色、青色的」「黄、黄的、黄色、黄色的」の全部が考察の対象となる。例文は『現代汉语語料庫』と『北京語言大學 BCC 漢語語料庫』から検索する。

『現代汉语語料庫』は現代中国語通用の均衡コーパスである。約1億語のデータが格納しており、新聞、書籍、口語、法律、社会、経済など広い範囲の語を集めている。

『北京語言大學 BCC 漢語語料庫』は、中国の新聞、文学作品、ウェブ、古代中国語など多領域のおよそ150億語を格納しており、現代中国社会の言語生活を反映できる膨大なコーパスである。

日本語の色彩語は「黒、黒い」「白、白い」「赤、赤い」「青、青い」「黄色、黄色い」を考察対象とする。例文は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から検索する。

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)は、現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築したコーパスであり、現在、日本語について入手可能な唯一の均衡コーパスである。書籍全般、雑誌全般、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、法律などのジャンルにまたがって1億430万語のデータを格納しており、各ジャンルについて無作為にサンプルを抽出している。すべてのサンプルは長短ふたつの言語単位を用いて形態素解析されており、さらに文書構造に関するタグや精密な書誌情報も提供されている。

⁴ 色彩語の基本義:本論文では色だけを指す意味を基本義とする。

⁵ 色彩語の拡張義:本論文では色をさす同時に何らか別の意味があると全く色を表さない意味を拡張義とする。

第一節 「黒」の意味分析

2.1.1 「黒」の基本義

「黒」は墨のような色、または黒に近い色を表す意味は最も基本的な意味である。本論文の色の基本義は全部その色の色相とする。

例 ①

中国語：她流泪了，晶莹的闪光的泪水，从眼角流过太阳穴，渗进浓密的黑头发中去。

日本語訳：彼女は涙が出た。透き通るようにキラキラしている涙は、目じりからこめかみを通して、濃密な黒髪のなかに入ってきた。

例 ②

中国語：我们相邀入门，遇见的是老黄，一个衣着朴素，宽脸膛黑皮肤的壮年人。

日本語訳：私たちは中に入って、黄さんと会った。黄さんは素朴で、顔が大きな黒い皮膚の壮年だ。

例 ③

中国語：“这正象我们的皮肤一样”，爸爸指指黄明的被太阳晒黑的手臂说：“皮肤晒了太阳会变黑。”

日本語訳：「これは私たちの皮膚のよう」、父は日で焼けた黄明の腕を指差して、「皮膚は日でやけたら黒くなるよ」と言った。

以上の三つの例文を見ると分かるように、例文①の「黑头发」の「黒」は、形容詞として髪の毛が墨のように黒いという意味である。例文②の「黑皮肤」は、皮膚が真っ黒ではなくて、普通の白いまたは黄色い皮膚と比べて、皮膚の色が深いという意味であるが、例①と同じの形容詞である。例文③の「晒黒」と「变黒」どちらも動詞になって「黒くなる」という意味である。中国語も日本語も形容詞から動詞になっていることがわかる。この三つの例を分析すると分かるように、「黒」の基本義は形容詞と動詞として使われることがほとんどである。「黒」は、例①と例②のように接頭語として使う時は形容詞である。例③のように語尾として使われる時は動詞になる。

2.1.2 「黒」の拡張義

色彩語の拡張義は二つの種類に分かれている。一つは色を表すと共に別の意味をも表す。もう一つは色を表さない。

1、暗い、光がない、夜

例 ④

中国語：今天黑夜我还有紧事要去办。
日本語訳：今日の夜、私はまだ用事がある。

例 ⑤

中国語：盛满了水，天已黑下来，他便摸黑挑着水往家里走。
日本語訳：水をいっぱい入れた。空は暗くなり、彼は暗やみで水を担いで家に帰った。

例 ⑥

中国語：没有别的，咱庄稼人就是出力吧，所以我就没黑没白的干哪，晚上或空闲时候，先干下自己的活，到了白天或忙时候，出去给人家打短工，就这样一个人顶两个人干。
日本語訳：しょうがない。私たち農民は力を出すしかできません。昼も夜もなく働いています。夜と暇の時はまず自分の仕事をしますが、昼間や忙しい時になったら、他の人を臨時に雇います。このように一人を二人として使っています。

例 ⑦

中国語：是春耕的时候了，人们都起早贪黑的下地。
日本語訳：春に田畑を耕す時期になりますが、人々は朝から晩まで働いています。

以上の四つの例文を見ると、例④「黑夜」は夜の意味である。「黒」は形容詞で、「夜」と共起して、空が暗いことを強調する。例⑤の「黑下来」は「暗くなる」の意味である。形容詞から動詞になった。「摸黑」は暗いままに進んでいくの意味であるから、「黒」は「光がない、暗やみの状況」であるから、名詞として使われている。例⑥の「没黑没白」と例⑦の「起早贪黑」朝から晩までの意味であるが、時間を惜しんで働くという意味がある。「黒」は「夜」の意味で、「黒い」という比喩的な用法である。日本語では「空が黒くなる」ではなくて、「空が暗くなる」と訳した。色彩語の「黒」を使っていなが、中国語ではよく「黒」を使って、

夜の暗い状態を「黒」で比喻する。以上の例文で出た「黒」は、ほとんど「空が暗い」の意味であるが、時間と関連している。

2、公正、厳粛である

例 ⑧

中国語：在教育孩子上，很多家庭父母一个唱黑脸，一个唱白脸。

日本語訳：子供の教育において、多くの家族の両親は、一人に対しては厳しくて、もう一人に対して優しい役を演じます。

「唱黒臉」は、もともと中国の京劇から伝わってきた言葉である。文字通り意味は「顔が黒い」であるが、普段は厳しい人を指す時良く使う。この「唱黒臉」「唱白臉」は中国伝統文化の京劇と関わっている。このように京劇と色の表現を結びつけて表す言い方が、中国では多い。京劇には包拯、張飛などは顔に黒いマスクを着ける代表であるが、曹操は白いマスクを着ける。包拯、張飛は、歴史上公正で厳しい人なので、現代の人々も「黒臉」をその公正的な正直な性格を表す。曹操は狡い人であるため、現代語では「白臉」は狡い人を指す。そのため、「唱黒臉」の「黒」は公正、厳粛の意味である。

色が京劇中の人物を表し、その人物の性格が色の意味を表す形となっている。

3、若い (人)

例 ⑨

中国語：在人们中间流传着“白发送黑发”的哀叹。

日本語訳：人々の間には「白髪の人を黒髪の人を送る」の悲しみが伝わっている。

例文⑨の「白发送黒髪」は、中国語の慣用語である。その意味は一つの家族で、年下の人（特に若い人）が、年上の人よりも先に亡くなったことを意味する。「白髪」は「髪の色が白い人」、「黒髪」は「髪の色が黒い人」の意味である。一般的に言えば、若い人の髪の色は黒いが、年を取った人は髪の色が白い。「黒」は形容詞として使われている。この慣用語の「黒髪」はただ髪の色が黒いだけのことを指すのではなく、若い人の総称にもなっている。若い人の総称といっても「白髪」との対象があるので、50代より前である。「白髪」も、ただ髪の色が白いことを指すだけではなく、お年寄や年上の人々の総称にもなっている。

4、利益

例 ⑩

中国語：现在中国与西方国家在财政上的差别很明显，中国的财政黑字与西方的财政赤字形成鲜明对比。

日本語訳：現代中国と西洋の国は財政上の差異が著しい。中国の財政黒字と西洋の国の財政的な赤字は明らかに見える。

例 ⑩

中国語：这件事你不承认不行，白纸黑字写的清清楚楚，是赖不掉的。

日本語訳：このことをあなたは認めなければなりません。はっきり書いてあるから。

例 ⑪

中国語：在美国，11月的第四个星期五被称为“黑色星期五”。

日本語訳：アメリカでは、十一月の第4週の金曜日は‘the black Friday’と言われる。

例文⑩と例文⑪も、中国語では「黒字」で表記しているが、その前の違う語彙に付いているのため、意味も全く違うようになった。例⑩は「黒字」の前に「財政」がついているから、お金と関わるので、「黒字」は利益をあげるの意味になる。

「字」と結びついて一つの名詞になる。例⑪の「白纸黒字」は慣用語である。文字通りでは「白い紙に黒い文字が書いてある」の意味である。「黒字」はつまり「黒い文字」であるが、現代語ではよく「白纸黒字」ではっきり証明することを比喩している。例文⑪の“黑色星期五”は英語の‘the black Friday’から訳されてきた。「利益が上がる」意味である。アメリカで十一月の第4週の金曜日、店はバーゲンする。多くの人その日で爆買いして、店の売上げが大幅に上昇する。以前、利益が上がる場合は黒いペンで標記し、利益が下がる場合は赤ペンで標記したのため、現在も「黒い」は利益を上げるという意味も続けて使われている。

5、怒る、怖がる、顔色が青ざめる

例 ⑫

中国語：石青嫂子惊恐地望一下，便黑着脸子，疑虑地问：“你们又来做啥子？”

日本語訳：石青さんは怖がって見て、顔色が青ざめて聞いた。「あなたたちは何をしに来たの」。

例 ⑬

中国語：阴天，连老天爷都黑着脸，人们小心翼翼地行走在人行道上，唯恐惹到了老天爷，下起暴雨，让你措手不及。

日本語訳：天気が曇り、お天道さまも顔が曇っている。人々はビクビク歩道で歩く。お天道さまを怒らせるのを怖がって、暴風雨になったら、

手遅れになってしまう。

例 ⑮

中国語：罕黎 黑着脸，脸颊青筋一跳一跳，十分的愤怒。

日本語訳：罕黎は顔色が青ざめて、顔に青筋を立てていて、すごく怒っている。

以上の三つの例文を分析してみると、例⑬、例⑭、例⑮の三つも中国語では「黑着脸」で表し、動詞として使われている。この「黑着脸」だけを見ると、三つも顔色がよくない。しかし、例文全体の文脈を見ると、それぞれの意味は違っている。例⑬の「黑着脸子」は、顔色が「黒い」は怖がっているのため、顔色青くなる。例⑭は擬人法の表現方法を使っている。曇っている空を怒っている人の顔に比喻して、雨が降りそうな様子を表す。例⑮の「黑着脸」は顔色が黒くて、怒っている意味を示している。例文は全部「黑着脸」であるが、顔が黒いという意味でかなっている。原因はそれぞれ違う。色彩語の意味拡張は単語レベルだけではなく、文脈にも関わっていることが分かる。

6、最後

例 ⑯

中国語：执着的追求要特别注意方向，小心 一条道走到黑。

日本語訳：執着的に何かを求める時、方法を注意しなければならない。頑固にしすぎないように気をつけた方がいい。

例 ⑰

中国語：她要是有别的出路还可以想一想何去何从，她现在只有一条路，并且非 走到黑 不可了。

日本語訳：彼女は他の道があればまだ考える余地があるが、いま一つの道しかない、最後まで行かなければなりません。

上記の例を見ると、二つの例文も「走到黑」である。「一条道走到黑」は中国語の慣用表現である。古代の中国は「里坊制」という町の建設制度を実施することがあった。家や建物の間に狭い横丁が多い、そしてその横丁の終点は閉じている。横丁を歩くときは元に戻ることもしないが、角を曲がることもしない、最後まで行かなければならない。「黒」は最後の意味である。現在は横丁がなくなったが、この慣用語はまだ普通に使われている、その意味はある目的或いは目標を達成するために、一切の努力をして、最後まで行くことになる。そのため、「黒」は名詞として、「終点、最後」の意味になる。「一条道走到黑」は褒める意味にも使うが、マイナスの意味にも使う。例文の全体的の意味をみると、例⑯は「頑固にしすぎない

ように」マイナスの意味である。例⑰「他の選択肢が無いから、仕方がない」のような気持ちも含めている。

7、先が見えない、絶望

例 ⑱

中国語：路没了，四周一片黑。
日本語訳：進むべき道がなくなり、周りは真っ黒であった。

例 ⑲

中国語：希望的灯一旦熄灭，生活刹那间变成了一片黑暗。
日本語訳：希望の光が消えたら、生活は瞬間に暗くなる。

上記の二つの例を比べて見ると、例⑱と例⑲はそれぞれ「黒」と「黒暗」である。単独で二つの語彙を見れば、意味は同じである。しかし、例文の全体をみれば、例⑱の「黒」は単純に「光が無いから、目の前が見えない」という意味である。「黒い」状態を表す。例⑲の「生活が暗くなる」は「絶望」という意味が感じられる。例⑱は「前に進む道が見えない」、これは実際に目で見えるが、例⑲の「生活が暗くなる」は「生活していく道が見えない」、これは目が見えないことを想像したものである。二つの共通点は「道が見えない」である。例⑲は「黒」の比喩的意味だと言える。

8、隠れている、違法である

例 ⑳

中国語：大部分矿工的老婆和孩子都是“黑户”，说实话，矿工太苦了。
日本語訳：ほとんどの鉱夫の奥さんとお子さんは戸籍に登録されていないが、鉱夫は本当に大変です。

例 ㉑

中国語：有人说他放高利贷，说他和格罗斯吕克合伙做黑市买卖。
日本語訳：彼は高利貸しをして、グロスリクと一緒にヤミ市場で取引をしているそうです。

例 ㉒

中国語：《漂亮朋友》暴露了当时新闻界的黑幕。
日本語訳：『ベラミ』は当時新聞界の内幕を暴いた。

以上の三つの例文には「黒戸」、「黒市」、「黒幕」があるが、それぞれ「戸」は「戸籍」、「市」は「市場」、「幕」は「内幕」の意味である。「黒」は形容詞として「戸、市、幕」を修飾している。「黒戸」は証明書がないから、法律に認められない家族である。「黒市」は、政府の許可を求めている違法的に形成した市場である。「黒幕」は犯罪や不公平などを含む暗黒の内幕である。三つの例は隠れている人や違法的な行為のようなマイナスの意味で使われている。

9、不幸な、悲しみ

例 ㉓

中国語：那些触目惊心的黑镜头，告诉人们世界上有一群人悲惨地生活着。
日本語訳：それらの写真は人々に、世の中にある人は悲惨な生活をしていることを教えた。

「黒镜头」は、形容詞の「黒」と「镜头」からなっている。「镜头」は日本語のレンズの意味である。「黒镜头」は、撮影者が倫理道徳に背く行為を暴露することから生まれた表現である。多くの「黒镜头」は戦争でなくなった子供や長期飢餓を受けている子供の写真である。「黒镜头」はマイナス面を表す一つの社会現象であり、違う社会で、違う階級の残酷さを写真で表して、世界中に悲しみの一面を吐露して、人々に警告を発している。

10、恥、不名誉

例 ㉔

中国語：一定要把案件搞清楚，不能让大家背黑锅。
日本語訳：みんな嫌疑を晴らすために、この事件はぜひともはっきりさせなければならぬ。

例 ㉕

中国語：随着网络的发展，明星的行为举止被无限放大，稍有一点过错就会被黑 得体无完肤。
日本語訳：インターネットの発展に伴い、芸能人の行為が拡張してとらえられ、小さな間違いでも多くの人に非難される。

上記の例㉔と例㉕を見ると、例㉔の「背黑锅」は文字通りの意味は汚い鍋を背負って、汚れは自分の服に付いてしまうのであるが、現在はよく他人の罪を負って、自分の名誉に泥を塗る場合で使う。「黒」はもともと黒い汚れであるが、現在は自分によくない不名誉のことを比喩する。例㉕の「被黒」は、ここ10年程年流行している言葉である。「黒」はもともと形容詞であるが、ここでは動詞として使われている。

る。「被黑」は「黒くさせられる」の意味で、他人に悪い言葉で攻撃される行為でよく使う。「黒」は共通して、名誉を棄損する意味で使われている。

11、不正、悪い、騙す

例 ②⑥

中国語：此人心黑手辣，什么坏事都干得出来。

日本語訳：この人は心が悪くて手段が残酷で、どんな悪事でもできる。

例 ②⑦

中国語：「天下乌鸦一般黑。」

日本語訳：天下のカラスは普通に黒い。（ことわざ）

例 ②⑧

中国語：那人不老实，别被他黑了。

日本語訳：あの人は正直では無い、彼に騙されないよう気をつけて下さい。

以上の三つの例文を見てみると、例②⑥「心黑手辣」は中国語の四字熟語であるが、心が悪くて手段が残酷の意味である。「心黒」は人の心臓の色は黒いわけではなく、心が悪いことを示す。「黒」は形容詞として使われている。例②⑦は『紅樓夢』からの典故であるが、今までもよく使う慣用語である。その意味はどこのカラスも黒いのように、どこの搾取者や圧迫者も同じく悪いことを比喻する。カラスは圧迫者を比喻し、黒は不正を比喻する。例②⑧「黒」は騙すの意味であるが、話言葉でよく使う。例文の「被他黒」は受け身の用法で、「黒」は形容詞や動詞に使われる。

12、潜在力がある人

例 ②⑨

中国語：一匹不起眼的黑马从后面奋力追赶上来。

日本語訳：1匹の目立たない黒い馬が、後ろから力を尽くして追いかけて来た。

例 ③⑩

中国語：他是总理选举中的一匹黑马，发挥出了出人意料的实力。

日本語訳：彼は総裁選のダークホースだ。予想外の実力を見せた。

上記の二つの例も「黑马」を使っているが、例㉑は本当の色が黒い馬であるが、例㉒は人を指している。「黑马」はそもそも英語から訳されて来た。英語では‘black horse’であるが、本来は競馬場で目立たない馬が意外に優勝した。現在も潜在力がある人を指す場合もよく使われる。特に政治選挙やスポーツ競技など重大なイベントで、予想と異なって当選や優勝した人を指す。

この節では中国語の色彩語「黒」について、例文を挙げながら意味を分析した。色彩だけを表す基本義と12個の色彩以外の拡張義を分析した結果、比喩的な意味が多いことが分かった。「夜」は「空が暗い」、「若い」は「髪の毛が黒い」のような色と関連があるメトニミーの用法があるが、「公正」、「悲しみ」、「希望がない」などのような抽象的な全く色を表さないメタファーの用法も多い。また、同じ「黒」であっても、中国語では「公正」と「不正」のような正反対の意味が存在して、褒める意味とマイナスの意味両方もあることが分かった。さらに、中国語の「黒」のメタファー的意味では、生活や性格を表す時、単独で「黒」だけでも修飾できるが、違法な行為や悲しみは、例えば「黒幕」のように「黒〇」「黒〇〇」のような形で、共起語をつけなければならないことが分かった。

第二節 「白」の意味分析

2.2.1 「白」の基本義

前節では中国語の「黒」を分析したが、この節は「白」について分析しようと思う。「白」は雪やミルクのような色であり、また、白に近い色をも表すことができる。これを「白」の基本義とする。

例 ①

中国語：一夜间，山林又覆上了一层白雪。
日本語訳：一晩の間に、山林はまた白雪に覆われた。

例 ②

中国語：老爷爷头发白了，身体却很硬朗。
日本語訳：お爺さんは髪の毛が白くなったが、体はまだ頑丈だ。

以上の二つの例文を見ると、例①の「白雪」は「白い雪」の意味である。雪はもともと白であるが、「雪」の前に「白」をつけて、雪の白さを強調している。この例文では「白」は形容詞である。例②の「头发白了」は「髪の毛が白くなる」の意味である。「白」は「白くなる」という動詞になった。

2.2.2 「白」の拡張義

「白」の拡張義について、色との関わりがある意味と全く色を表さない二つの種類がある。

1、明るい

例 ③

中国語：他为了提高自己的文化素质，白天工作，晚上念夜大。

日本語訳：彼は自分の文化素養を上げるために、昼は仕事をするが、夜は夜間学校に通っている。

例 ④

中国語：我的人生就像在白夜里走路。

日本語訳：私の人生は白夜を歩いているようだ。

以上の二つの例のように、例③の「白天」は「明るい空」の意味であるが、つまり、「昼」である。例④の「白夜」は南極や北極に近い地方で、夏に真夜中でも日が沈まない現象であるが、夜になっても空は明るいのため、この「白」も明るいの意味である。文章全体では、輝かしい人生であったことを表している。二つの例とも時間と関連している。

2、汚れがない、純粋

例 ⑤

中国語：她那洁白无瑕的心灵，像水晶一样透明。

日本語訳：彼女の純粋な心は水晶のように透明だ。

例 ⑥

中国語：友谊，就像一杯水，无色无味的白开水。

日本語訳：友情は色もない味もない水のようなものである。

上記の例⑤と例⑥を挙げた。例⑤は「洁白无瑕」は白くて純粋であり、「心」を修飾している。「洁白」は、他の色に染まっていない純白である。「无瑕」は本来傷やしみがない玉を指すが、「洁白」と一緒に使うと、人の心の美しさを比喻することもできる。例⑥の「白开水」は、日本語での「お湯」であるが、ここではお湯を冷ました純粋な水のことを表している。一般的には、水は色がない透明のものであるが、中国語ではよく「白」で修飾する。汚れもない何もない純粋さを強調する

ことができる。例⑥は友情を「白开水」に比喻し、友情が純粹であることをはっきり表している。

3、年をとる（人）

例 ⑦

中国語：在人们中间流传着“白发送黑发”的哀叹。

日本語訳：人々の間には「白髪の人を黒髪の人を送る」悲しみが伝わっている。

例 ⑧

中国語：和去年十月份于而龙见到他时，除了那满头白发、一脸皱纹外整个精神状态找不到一点共同之处。

日本語訳：去年10月彼とあった時の様子と比べて、白の髪の毛と顔のシワを除いて、精神状況は全然違う。

以上の二つの例も「白发」であるが、一般的に言えば、病気や遺伝のため産まれながら髪の毛が白いの人を除いて、髪の毛が白いのは老人の特徴である。例⑦の「白发送黑发」は、中国語の慣用語である。その意味は一つの家族で、年下の人（特に若い人）が年上の人よりも先に亡くなることである。「白发」は「髪の毛が白い人」、「黑发」は「髪の毛が黒い人」の意味である。一般的に言えば、若い人の髪の毛は黒いが、年を取った人は髪の毛が白い。「白」は形容詞として使われている。この慣用語の「白发」は、ただ髪の毛が白いことを指すだけではなく、御年寄の人や年上の人を総称にもなっている。「黑发」もただ髪の毛が黒いだけのことを指すではなく、若い人の総称にもなっている。例⑧は全白の髪の毛は年をとる人の写像である。以上の二つの例から、「白」で「老人」を表す時、いつも「髪」と一緒に使うことが分かる。

4、病的、不自然な顔色

例 ⑨

中国語：夫妻两人吵得正凶，却忽略了脸色发白，噤若寒蝉的孩子，瑟缩地躲在墙角。

日本語訳：夫婦二人は激しく喧嘩しているが、顔色が青白くなって黙って隅に縮こまって隠れている子供を無視している。

例 ⑩

中国語：卓红苏气得脸色发白，“你不要欺人太甚！”。

日本語訳：卓紅は顔色が青白い顔をして、「人を馬鹿にするな」と言った。

例 ⑩

中国語：他脸色发白，看起来很不舒服的样子。

日本語訳:彼は顔色が青白くて、元気じゃないようです。

以上の三つの例を見よう。三つの例文も「脸色发白」（顔色が青白い）が、例文の全体からみれば、同じ顔色が不自然であるが、それぞれの原因は違う。例⑨「怖がっている」のため、顔色青白くなる。例⑩は「怒る」ため顔色が青白くなる。例⑪は「病気や調子が悪い」ため、顔色が青白くなる。三つの例文も「白」は形容詞から動詞になった。この三つの例文は全部「脸色发白」であるが、文脈によって意味も違う。色彩語の意味拡張は文脈に影響されることがわかる。

5、優しい（役）、狡い

例 ⑫

中国語：在教育孩子上，很多家庭父母一个唱红脸，一个唱白脸。

日本語訳：子供の教育においては、多くの家族の両親は一人が厳しく、もう一人は優しい役を演じます。

例 ⑬

中国語：他是个吃软饭的小白脸。

日本語訳:彼は女に頼る美男子だ。

例 ⑭

中国語：在传统京剧里曹操是奸白脸。

日本語訳:伝統的な京劇において、曹操は顔が白い奸臣である。

「一个唱红脸一个唱白脸」は中国語の慣用語であるが、「一个唱黑脸一个唱白脸」もよく使う。その意味は「何かの矛盾を解決する際、一人は優しい役を演じるが、もう一人は厳しい、人に嫌われる役を演じる」ということである。「红脸」は見た目が厳しいが、心が素直という意味である。「白脸」は見た目の優しさである。これらの慣用語は中国の京劇から伝えられてきた。例⑭のように、曹操は「白脸」の代表の一人である。中国の歴史で、曹操は狡い人であるから、現在もよく「白脸」で悪い人を表す。例⑬の「小白脸」は、能力がないが、女の人に頼る男性をさすが、狡いイメージがある。男性を皮肉る時によく使う。

6、葬儀

例 ⑮

中国語：中国人把婚礼和丧事合并称为“红白喜事”。

日本語訳:中国人は結婚と葬儀を「紅白喜事」と言う。

中国では、結婚は「紅事」と呼ばれるが、葬儀は「白事」と呼ばれる。そのため、赤色はおめでたいことをイメージできるが、白色は悲しいイメージがある。中国では古い時代から結婚の時、部屋や服などたくさんの赤色のものを飾る。その逆に、葬儀はいつも部屋を白い布で飾ったり、白い服装を着たりする。これも「白」「赤」に対するイメージが起こる原因となると思われる。現在は西洋の影響で結婚の時もウェディングドレスを着るなどをするが、昔と同様に「紅事」と呼ぶ。

7、降伏する

例 ⑯

中国語：敌人黔驴技穷,只好举白旗投降。

日本語訳:敵は詮方尽きて投降するより他なかった。

「白旗」は文字通りでは「白い旗」であるが、戦争で「白旗」を挙げたら、投降の意味を表す。日本と全く同じである。ここで「白」は形容詞で、「旗」は名詞であるが、組み合わせると「白旗」は名詞になる。しかし、「白」だけでは投降の意味がないが、「旗」と共起すると「投降」の意味になる。白で投降を表すのは秦の時代から始まった。秦の時代では、黒色は国の色であり、勝利を代表するが、黒の正反対の色「白」も投降を表すようになった。

8、～ない

例 ⑰

中国語：紧张到脑子一片空白。

日本語訳:緊張しすぎて頭が真っ白になった。

例 ⑱

中国語：许多重要的文学著作如《水浒》、《儒林外史》、《红楼梦》等都是用白话写的。

日本語訳:多くの重要な文学作品、例えば『水滸伝』『儒林外史』『紅樓夢』は白話で書いた。

例 ⑱

中国語 : 他是 白手起家 的企业家。

日本語訳: 彼は裸一貫から身を起こしたビジネスマンである。

例 ⑳

中国語 : 老秦使了使劲, 显然是 白费力气。

日本語訳: 秦さんは精一杯をしたが、無駄だった。

例 ㉑

中国語 : 无功不受禄嘛, 怎么能 白吃白喝 呢?

日本語訳: 何もしていないのだから、ただで食べたり飲んだりしてはいけません。

以上の五つの例文を分析してみよう。「～ない」の意味から見れば、例⑰の「空白」は「頭には考えが浮かばない」である。例⑱の「白話」とは、現代中国語の話し言葉である、方言も「白話」に属している。以前の古文の「文言文」と比べて、注釈がなくなっていて皆が了解できる、わかりやすいという意味で、白というイメージと結びつく。例⑲の「白手起家」は、経済的の支持がない、自分の力で創業して成功した意味である。この「白手」は「お金がない」である。例㉑の「白费力气」は「力をつかったのだけれども（力气）、無駄になってしまった」の意味であるが、この「白」は「効果がない」である。例㉒の「白吃白喝」は「お金を払わないまま食べたり飲んだりする（無銭飲食）」の意味であるが、ここの「白」は「お金（或いはお金を替わるもの）を払わない」というマイナスの意味である。

9、正しい（こと）、公正である

例 ㉒

日本語 : 你怎么 黑白不分, 不问青红皂白地就乱骂一通呢?

中国語訳: あなたはどのようにして善悪も分けず、勝手に人を罵るの。

例 ㉓

中国語 : 我相信法律终能还我 清白。

日本語訳: 法律は私が白だということを証明できると信じる。

前節で「黒」を説明したように、「黒」は「不正、悪い」という意味があるが、「白」は「黒」の正反対の色なので、正反対の意味もある。例文㉒のように、「黑白不分」は「善悪分けず」という意味であるが、「白」は「善」の意味である。例文㉓「清白」の「清」は透明であるが、「白」と合わせて、主に人の品行は汚れないことを表している。この二つの「白」も名詞として使われている。

10、正しくない

例 ㉔

中国語：作文永远停留在小学三年级的水平，白字连篇不说，内容也大同小异。

日本語訳：作文はずっと小学校三年生のレベルのまま、誤字ばかりで、内容もいつもほぼ同じ。

この例文を見ると、「白字」は文字通りでは「白い文字」であるが、しかし、この例文の「白字」は「誤字」の意味である。誤りの意味を表すのは文字についてだけである。

11、政治に関わる

例 ㉕

中国語：脱离实际、死记硬背、没有真才实学、不问政治的走白专道路的。

日本語訳：現実から離れ、暗記ばかり、本当の才学はない、政治に無関心の行為は「白専」である。

例 ㉖

中国語： 白军 前脚一撤，红军立马就杀回来。

日本語訳：国民党軍隊は撤退したところ、紅軍が殺到してきた。

例 ㉗

中国語：中国政府发表白皮书，阐明中国政府对重大问题的原则立场和基本政策。

日本語訳：中国政府は白書を発表し、中国政府は重大問題の立場と基本政策を明らかに論じた。

例㉖と例㉗を分析しよう。例㉕の「白専」は政治に関心がない人（ノンポリ）または行為をさすが、新中国が成立した1949年前後につかわれていた。例㉖は以前中国共産党の「紅軍」と対照的に、国民党の軍隊は「白軍」と称された。「紅軍」と「白軍」の言い方はロシアから伝わってきた。ソ連内戦の時、皇室の代表色は「白」であったため、その軍隊も「白軍」と名付けた。皇室を反対する軍隊は「紅軍」と名付けた。二つの例文も時代性がある専用語であるが、当時の政治と関わっていた。例㉗の「白皮书」は、日本語の「白書」であるが、白書は政府が発表した政治や外交、経済に関わる重大問題のファイルであるが、表紙はいつも白いため、「白皮书」と呼ばれるが、政府や政治に関わっている。英国において、内閣が議会に提出する公式報告書とその表紙の色からホワイトペーパー（White Paper）と通称

していたことから、世界の多くの国もそれに倣って政府が作成する報告書の通称を白書と呼ぶようになった。

この節では中国語の色彩語「白」について、例文を挙げながら意味を分析した。色彩だけを表す基本義と 11 個の色彩以外の拡張義を分析した結果、比喩的な意味が多いことが分かった。品詞からみれば、「白」はほとんど形容詞として使われ、他の共起語と組み合わせると名詞になるのがほとんどである。「白」の拡張義について、「明るい」「年をとる」「病的」など色と関連がある意味項目が多い。「正しい」「正しくない」「政治」のような色と関連がない意味項目が相対的に少ない。また、「白」も「黒」と同じように、「純粹」「正しい」の褒める意味があるが、正反対の「狡い」「正しくない」のようなマイナスの意味もある。ここから我々は一つの色彩に対して、いくつかの全く違うイメージが生じていることが分かる。

第三節 「紅」の意味分析

2.3.1 「紅」の基本義

「紅」は血や太陽のような色であり、または赤に近い色をさすが、ここでは「紅」の色だけを表す意味を「紅」の基本義とする。

例 ①

中国語：我戴起老花眼镜一看，上面盖着中国科学院的红色大印。

日本語訳：私は老眼鏡をかけて見ると、紙の上に中国科学院の赤い印鑑があった。

例 ②

中国語：她很快冲了杯滚烫的红茶进来。

日本語訳：彼女は速く熱々の紅茶を持ってきた。

以上の例①と例②を見ると、例①「红色大印」は「赤い印鑑」の意味である。一般的に言えば、普段使う印鑑の色は朱色が、この色は紅の中核の色だと言える。例②の「红茶」は「紅茶」であるが、紅茶は真っ赤ではないが、赤褐色である。そのため、「紅」は中核の色を表すことができるが、その周辺的な色を大まかに表すこともできる。

2.3.2 「紅」の拡張義

「紅」の拡張的意味については、赤色を表すと共に別の意味も含める意味と全く色を表さない意味の二つがある。

1、顔が赤くなる

例 ③

中国語：当时我胆子小，一上讲台就不免脸红心跳。

日本語訳:その時は臆病のため、講壇に行くと顔が赤くなる。

例 ④

中国語：直到现在，我想起来还为自己感到脸红。

日本語訳:今までもその時の自分を思い出したら恥ずかしいです。

例③と例④を分析してみよう。例③の「脸红心跳」は顔が赤くなり、心がドキドキするの意味である。例④の「脸红」は顔が赤くなるの意味である。二つの例も顔が赤くなるが、例文の全体を見れば、意味が違うことが分かる。例③は演題に行くとき緊張し、顔が赤くなる。例④は恥ずかしいため、顔が赤くなる。二つの例も「紅」は形容詞から動詞になっている。

2、おめでたいこと

例 ⑤

中国語：在传统的婚礼，新娘普通身穿红色嫁衣，头戴凤冠，上面覆有一张喜帕。

日本語訳:伝統的な結婚式では、花嫁はよく赤い婚服を着て、頭に鳳凰の形の冠をかぶる上に、赤い布をかぶる。

例 ⑥

中国語：披红戴花，多光荣多体面的事嘛

日本語訳:赤い絹を肩に掛け、花を胸につけ、それはどんなに光栄なことだろう。

例⑤と例⑥を分析してみよう。例⑤は「红色嫁衣」は結婚の時、花嫁が着る赤い婚服である。「喜帕」はこの言葉に「紅」はつかっていないが、人々の普遍的な認識では「喜帕」は赤色である。この例で「紅色」は形容詞である。例⑥「披红戴花」は赤い絹を肩に掛け、花を胸につける意味である。赤い布の他に、例文の「花」は色を明確に書いていないが、特に赤い花を指す。この例の「紅」は名詞である。この二つの例もおめでたいことである。このように、いい事やイベントを行うとき、いつも赤色で飾ることから、「赤い」もおめでたいイメージが強くなる。

3、熟成すること

例 ⑦

中国語：院中一口水井和两棵李子树，树上的李子已经红透了。

日本語訳：庭園には井戸一つとスモモの木二本があり、スモモはもう熟れた。

例 ⑧

中国語：高粱涨红了脸，稻子开了怀，秋姑娘悄悄来到了人间。

日本語訳：高粱は顔が赤くなり、稲も懐をあけた。秋の季節はそっと来た。

例⑦の「红透了」は「熟成した」という意味である。動詞として使われている。例⑧は例文の全体は擬人の方法で描写している。高粱は植物なので、顔がないが、この例文では、高粱の成熟した赤い状態で、顔が赤くなる様子に比喻している。

「涨红了脸」の「紅」は動詞として使われている。例⑦と⑧も赤い状態で成熟した結果を表している。

4、料理の方法

例 ⑨

中国語：妈妈特地买了一条大鲤鱼，要自己做红烧鱼吃。

日本語訳：母は大きな鯉を買って、醤油煮込みの魚を作りたいだそうです。

「红烧」は中華料理でよく使う調理の方法である。大体は半熟の肉や魚などに醤油を加えて煮込み、最後に料理の色を深い赤色にする方法である。「红烧」の「紅」は「赤くさせる」の意味であるが、動詞として使われている。

5、血、血液

例 ⑩

中国語：他要回不出所以然来，咱们是白刀子进红刀子出！

日本語訳：彼は原因を言わなければ、彼を殺す（白い刃物を抜くと赤い色になっている）。

例 ⑪

中国語：大鲸流出的血已经把四周的海水染得一片血红。

日本語訳：鯨の血は周りの海水を赤く染めた。

例⑩と例⑪を分析してみよう。例⑩の「白刀子进红刀子出」は、中国語の熟語、人を殺すの意味であるが、人を刺す前に、刀は綺麗なだが、刺したあと、刀は血が

付いて赤くなるという意味である。この例文では「紅」は形容詞であるが、血をも指している。例⑪の「血红」は血のような赤い意味である。「血」と「紅」は二つの赤い意味であるが、両方一緒に使うと、「血」のイメージが深くなる。

6、危険を警告すること

例 ⑫

中国語：红灯停，绿灯行，这是人人必须遵守的规矩。

日本語訳：赤信号は止まれ、青信号は進め、これは誰でも守らなければならないルールである。

例 ⑬

中国語：这可不是危言耸听，如果你不注意血压，将来健康一定亮红灯。

日本語訳：これは大げさに言うわけではない、もし血圧を気にしなければ、健康は危うくなる。

以上の二つの例をみると、例⑫と例⑬も「红灯」を使っている。「红灯」は名詞であるが、「紅」は形容詞として使われている。例⑫「红灯」は「赤信号」の意味である。赤信号は止まることの他に、「危ない、気をつけて」の意味も含んでいる。例⑬は健康の信号が赤くなる。これは比喩の表現方法である。体の調子は道路のよう、病気は赤信号のよう、体は病気になったら、危なくなり、前に進めなくなる。この二つの「红灯」の共通点は危険を警告するところである。

7、損失

例 ⑭

中国語：国家财政收支今年继续有不小的赤字。

日本語訳：国の財政収支は今年続けて赤字だった。

「赤字」は経済用語であり、「黒字」の利益と反対に、支出が収入を上回り超過するの意味である。「赤字」の由来は二つがある。一つは中国の南北朝時代の時からの「朱出黒入」で記帳を使い始めた。「朱」は朱色、「出」は支出、「黒」は黒色、「入」は収入である。もう一つは西洋の簿記の文化から由来したものである。西洋の簿記では通常は黒インクで記すのに対し、支出が収入を超過した場合や預金を借り越した場合などに赤インクでこれを記した。二つとも由来が簿記の記入方である、日本語にも「赤字」があり、意味の全く同じであるが、西洋語から借用してきたことが認められる。

8、目が赤くなる、嫉妬する、激怒する様子

例 ⑮

中国語：人们都不希望惹人注意，尽量避免造成闲言闲语，或使人眼红。
日本語訳：誰も他人に注目されたくないが、できるだけ他人の不満や嫉妬を避けるようにする。

例 ⑮

中国語：仇人见面，分外眼红。
日本語訳：敵に会うと、目が赤くなる。

例文⑭と例文⑮を見ると、二つの例も「眼红」を使った。両方「红」は動詞である。「眼红」は文字通りでは「目が赤くなる」の意味である。その文字通りの意味を伸ばすと、嫉妬や激怒の意味をも良く使われる。例えば例⑭の「眼红」は嫉妬というマイナスの意味であるが、例文⑮の「眼红」は怒るという意味である。

9、処罰

例 ⑯

中国語：如果比赛中被亮了红牌，那么取消了该队员当场继续比赛的权利。
日本語訳：もし試合でレッドカードを出したら、その選手は試合を続ける資格を失ってしまう。

「红牌」は外来語の「Red card」から訳されたものである。最初にはイギリスのサッカーの試合で使い始めたが、現在では多くの陸上試合でも使われている。はスポーツの試合において、特に悪質な反則を行ったプレイヤーに対して、審判員が退場処分を言い渡す時、レッドカードを提示する。そのため、「红」は処罰のイメージがある。この点について、中国で日本でも外来語を借用するため、日本語と中国語も意味が同じである。

10 成功する、人気がある

例 ⑰

中国語：他这学期的学习成绩夺得了满堂红。
日本語訳：彼は今学期全科目もいい成績を取った。

例 ⑱

中国語：那个歌手在他很红的时候退出了演艺圈。
日本語訳：あの歌手は最も売れている時に芸能界を引退した。

例 ⑲

中国語：他现在可是总经理跟前的红人。

日本語訳:彼は今社長の最も信頼できる人だ。

以上の三つの例文を分析してみよう。例⑰の「满堂红」は、文字通りでは「どこでも赤い」であるが、各方面でもいい成績を取ったの意味を比喻する。例⑱の「很红」は文字通りでは「とても赤い」の意味であるが、「人気があること」を比喻している。例⑲の「红人」は文字通りでは「赤い人」であるが、誰かに信頼できる人の意味である。特に権力のある人に信頼され、職業の成功も示す。三つの例も「成功する」という共通点がある。

11、花、女性

例 ⑳

中国語：落红 不是无情物，化作春泥更护花。

日本語訳:落紅は是れ無情の物にあらずして、化して春泥と作りて更に花を護らん。

例 ㉑

中国語：自古 红颜 多薄命。

日本語訳:古い時代から綺麗な女性はよく短く生きる。

以上の二つの例も以前から伝わってきた言葉である。例⑳は清朝の詩である。「落红」は「落ちた花」であるが、「红」は花を指す。一種の花だけではなく、花の全体も含めている。例㉑の「红颜」は「赤い顔」であるが、特に容貌が綺麗な女性を指す。現代中国語でも良く「红颜」と「蓝颜」を使うが、「红颜」は女性を指し、「蓝颜」は男性を指す。このように、色で男性・女性を表すことができるようになる。

12、お金

例 ㉒

中国語：过春节的时候，家里的长辈给小孩发红包 是中国的传统习惯。

日本語訳:春節の時、目上の人家族の子供にお年玉をあげるのが伝統的な習慣である。

例 ㉓

中国語：所有人都入股，作为回报，他们每年都获得分红。

日本語訳:みんなも株を買うなら、報酬として、毎年も利益をもらえる。

以上の二つの例を見ると、例②の「红包」は赤い紙で包んだお金、つまり、お年玉の意味である。例文のお年玉の他に、現在では色々な場面、例えば、結婚式で祝福のお金、獎金、他人を賄賂するのお金など、わざわざ赤い紙で包んでなくても「红包」と呼ぶ。そのため、「红包」は褒める意味である。例③の「分红」は利益を分ける意味である。特に企業利益によく使う。この例の「紅」は名詞として使われている。

13、共産主義、革命

例 ④

中国語：在“瑞金”这个红色土地里，留下了很多历史足迹。

日本語訳：「瑞金」この赤い土地には、多くの歴史遺跡が残された。

例 ⑤

中国語：经过艰苦卓绝的斗争，红军取得了战斗的胜利。

日本語訳：苦しい戦闘を経て、紅軍は勝利を取った。

以上の二つの例を分析しよう。例文④の「红色土地」は赤い土地と訳したら、歴史を理解していない人にとって理解し難いかもしれない。「红色土地」は「土地が赤い」のではなく、新中国が成立する前に、共産党がそこで革命活動を行ったのである。共産党はロシアの影響で、1917年ソ連内戦の時、皇室の代表色は「白」であったため、その軍隊も「白軍」と名付けた。皇室に反対する軍隊は「紅軍」と名付けた。そのため、「红色」は革命主義の意味がある。例文⑤の「红军」は、前節の「白軍」とは反対に、「革命を主張する軍隊」の意味である。この二つの例も「革命主義」の独特なイメージが強い。

14、隠さない、純粋な

例 ⑥

中国語：赤裸裸的判词听起来非常刺耳，却说出了最重要的事实。

日本語訳：赤裸々な判決文は耳にさわる、最も重要な事実を言い出した。

例 ⑦

中国語：他是位成功的童话故事作家，因为他拥有一颗赤子之心。

日本語訳：彼は成功の童話作家であるが、それは純粋な心があるからだ。

この二つの例を見て分かるように、ここで使ったのは前の「紅」ではなくて、「赤裸裸」と「赤子之心」も「赤」である。中国語では、「紅」「赤」「朱」の三

つも「赤色」を表すことができる。一般的には「紅」がよく使い。例②⑥の「赤裸裸」は、判決文が綺麗ではないが、真実も何も隠されなくてそのままであることを表現している。例文②⑦は「赤子之心」の「赤子」は赤ちゃんの意味であるが、「赤子之心」は、赤ちゃんのような純粋の心の意味である。

15、何も持たない

例 ②⑧

中国語：武松 赤手空拳 地打死了一只老虎。
日本語訳:武松は何も武器をもたなくて、両手で虎を殺した。

例 ②⑨

中国語：父亲十三岁就只身来到城市里，赤手空拳 打下这片江山。
日本語訳:父は13歳この町に来て、何もないのにこの事業を創設した。

以上の二つの例も「赤手空拳」である。「赤手空拳」は本来の意味は、戦うの時、手元には武器が持たないが、両手で戦う意味である。例②⑧はこの本来の意味である。例②⑨は資金や権力などの背景が持たなくて、自分の力で事業を始めたの意味であるが、ここではなにもないことを武器で比喻していると言える。

この節では中国語における「紅」について例文を挙げながら分析した。色相だけを表す意味と拡張した15個の拡張意味について分析した。15個の拡張意味の中には、中国以前から今までずっと使っている意味用法があり、時代によって言葉の変遷や外来文化の借用がある。例えば、「红包」について、以前はお年玉の意味であったが、現在では賄賂にも使われている。「红牌」は、以前中国語にはないが、外国から伝わってきた。言葉の意味の変遷が見られる。また、「紅」は「革命主義」の歴史の特徴で、地域性があることが見られる。さらに、「紅」は、ほとんどは形容詞として使われている。「紅」は人の身体部位と共起するとき、例えば、「脸红（顔が赤くなる）」「眼红（目が赤くなる）」など人の情緒を表すのが一つの傾向であることがわかる。最後に、「紅」は前節で述べた「黒」と「白」と同じように、一つの色で正反対の意味両方も持っていることが分かった。例えば、「紅」は「赤字（欠損する）」と「分红（利益を分ける）」は二つもお金に関わるが、正反対の意味である。中国人に対して、「紅」は喜ばしいイメージがあるため、15個の拡張意味の中で、喜ばしいが含む意味は他の意味と比べて多いことが分かった。

第四節 「青」の意味分析

2.4.1 「青」の基本義

前節では中国語の「赤」について分析したが、この節は「青」について分析したい。「青」は緑色とブルーの間の色であるが、色相だけを表す時に、緑色とブルー両方も「青」で表すことができる場合が多い。本論文ではこれを「青」の基本義とする。

例 ①

中国語：哪有如此胆大妄为的人，竟敢在青天白日之下公然抢劫。

日本語訳：そんな大胆な人もいるか、公然として昼間に強奪することもある。

例 ②

中国語：那只黄花小猫从脚边跑开，歪着头咬青草。

日本語訳：あの黄色い猫は足で走り、頭を歪めて青草を噛んでいる。

以上の二つの例の「青」を基本義とする。例①の「青天白日」は昼間の意味であるが、「青天」は青空をさす。青空の色はブルーである。例②「青草」は青い草である。草は緑色である。例①のブルーと例②の緑色も「青」で表すことができる。そのため、色相を表すとき、ブルーと緑色も基本義とする。

2.4.2 「青」の拡張義

「青」の拡張義について、色との関わりがある意味と全く色を表さない二つの種類がある。

1、春

例 ③

中国語：白发催年老，青阳逼岁除。

日本語訳：白髪催し年老い、青陽歳除逼る。

例 ④

中国語：关爱是一缕青风，使人身心舒畅。

日本語訳：愛護は春の風のように、人の心身を快適にする。

例③は孟浩然の詩である。「青阳」は春の意味である。例④の「青风」は春の風の意味である。二つの例も「春」をさす。春は万物がよみがえる季節なので、草や木などの植物も改めて青くなる。青い」の色で春を表す言葉も多く見られる。

2、黒色

例 ⑤

中国語：好象是一根一根地数着那一头柔软乌亮的青丝。

日本語訳:一本一本黒髪を数えているようである。

例⑤の「青丝」は、比喩的表現である。「青丝」で「黒い髪」を比喩する。そのため、「青」は黒い色をさす。一つの色でもう一つの色を比喩できる。これも他の色と比べて、色彩語「青」の特別なところであると言える。

3、青ざめる

例 ⑥

中国語：当他最宠爱的小儿子公然反抗他时，他气的脸色发青。

日本語訳:最も可愛がっている小さい息子が公然として彼に抵抗するとき、彼は怒って顔色が青ざめている。

例 ⑦

中国語：您喝酒喝多了,应该是躺在床上咽住了,脸都发青了

日本語訳:お酒を飲みすぎて、ベッドに横になって、嘔吐して顔がすっかり青くなった。

以上の例⑥と例⑦を見てみよう。二つの例も「脸色发青」を使っている。意味は顔が青くなる、つまり顔が青ざめるの意味である。しかし、二つの例文の内容の全体を見ると、意味は違うことがわかる。例⑥は「气的脸色发青」怒るのため、顔が青ざめるようになった。例⑦はお酒を飲みすぎて、顔が不自然に青くなったという意味である。

4、未成熟である

例 ⑧

中国語：这时，正是青黄不接的时候，大家粮食都很紧。

日本語訳:これはちょうど作物が端境期なので、皆も食べ物に余裕はない。

例 ⑨

中国語：要提高教学质量，当务之急是要改变学校骨干教师 青黄不接 的状况。
日本語訳：教学の質を高めるには、現在の急務は学校の柱となる教師が足りない状況を変えることだ。

以上の二つの例を見ると、例⑧と⑨も「青黄不接」である。「青黄不接」の意味は、字面的では青色に黄色が帯びている状態をさす。前文の「黄色い」を分析する際、「黄色」は作物が成熟した色なので、「成熟」の意味がある。そのため、「青黄不接」は未成熟から成熟する間の状態である。「青」は未成熟の意味である。例⑧の「青黄不接」は作物をさすので、前述の意味である。例⑨の教師は人のため、「青黄不接」は経験が少ない教師と経験が十分ある教室が繋がらないという意味になっている。「青」は経験がないという意味になる。

5、若い

例 ⑩

中国語：在我们先进 青年 中出现这样的问题，更是值得引起我们注意。
日本語訳：私たち優秀な青年にもこのような問題があるからこそ、大事にしなければならぬ。

例 ⑪

中国語：有了这些，一个人的 青春 就过得有意义。
日本語訳：これらがあれば、青春の時期は有意義になる。

以上の二つの例を分析しよう。例⑩の「青年」は若い人の意味である。普通は15歳から45歳までは「青年」と見られる。例⑪の「青春」は人生における若く未熟で、しかしながら元気で力に溢れた時代を指す。青春とは、元は春を表す言葉である。古代中国の五行思想では、「春」には「青（緑）」が当てられる。同様に、「夏」を「朱（赤）」、「秋」を「白」、「冬」を「玄（黒）」に当て、それぞれ「青春」、「朱夏」、「白秋」、「玄冬」という。これらは季節を表す言葉であり、これが転じて、人生における若く未熟であるという意味になる。

6、はっきりする

例 ⑫

中国語：他不分 青红皂白，一见面就劈头劈脸把他大骂了一顿。
日本語訳：彼は否応なしに、会った瞬間に彼を大罵った。

上記の例⑫を見よう。「青红皂白」の四文字はそれぞれ青、赤、黒、白の四つの色をさすが、四つの色をはっきり分別できるため、これで物事の是非、原因、経緯

を比喻する。常に「事の是非をいわず、いきなりにする」というネガティブの意味で使われている。

7、東方を指す

例 ⑬

中国語：东方谓之青。

日本語訳：東方は青と言われる。

中国の古い哲学「五行思想」は日常生活での五つ元素「金、木、水、火、土」を自然現象変化の基礎とされる。「金、木、水、火、土」もそれぞれ「白、青、黒、赤、黄色」五色に対応している。また、五行もそれぞれ「西、東、北、南、中」の五方位に対応するため、五色の「青」は、五方位の「東」を代表している。

8、浮気

例 ⑭

中国語：他被戴绿帽子了。

日本語訳：彼は浮気をされた。

前で述べたように、「青」は色を表す時、「緑色」と「ブルー」両方も表し得るため、この例は「青」ではなくて「緑」を使っている。「绿帽子」は、中国語の俗語である。字面的な意味は緑の帽子であるが、そのほかに、夫婦やカップルの関係で、一方（特に女の方）が浮気したら、男性の方が「（戴绿帽子）緑色の帽子をかぶらされた」や「（头顶一片绿）頭の上は緑だった」「被绿了」などのような婉曲表現がある。そのため、「青」は「緑」をさす時、「浮気」の意味がある。

9、好ましい

例 ⑮

中国語：这个新产品一经推出就受到广大消费者的青睐。

日本語訳：この新商品は市場に出たから消費者に注目された。

例⑮の「青睐」は動詞であり、「人に愛される」の意味である。「青睐」の「睐」は「見る」の意味である。正眼で見る、重視していることを表す。

10、完成する

例 ⑯

中国語：在影片杀青后，精彩刺激的电脑美术设计才加入。

日本語訳：映画の撮影が終わってから、素晴らしいパソコン芸術のデザインが始まる。

「杀青」はもともと古代の竹で作った本を加工する時使う用語であるが、現在では書籍の完成や、映画、ドラマのような撮影作品の完成などにも使われる。そのため、「杀青」は動詞で「完成する」という意味である。

11、永存する

例 ⑰

中国語：“祝中日友谊长青，祝诸位先生健康！”

日本語訳：日中友情の常磐と皆様の健康を祈ります。

「长青」は「常緑」の意味であり、形容詞である。春の草木が生い茂り活気に溢れる様子のように、長く続くという意味を比喻する。「长青」はよく友情、友好や精神、名誉などを修飾することが多い。

この節では中国語の「青」について分析した。「青」は色相を表す時、「緑色」と「ブルー」両方も表しできる。そのほか、「春、黒色、青ざめる、未成熟（作物）、若い（人）、はっきりする、東方、浮気、好ましい、完成、永存」の11個の拡張意味を分析できた。この11個の意味の中に、色を表すとともに、別の意味もあるのは「春、黒色、青ざめる、未成熟（作物）、東方、はっきりする」の六つがあり、全く色相を表さないのは「若い、浮気、好ましい、完成、永存」の五つがある。この11個の拡張意味から、「青」は他の色と違って、正反対の意味がなかった。また、「青」の拡張意味は色相の「緑」から連想しやすい。例えば、緑の木から春の意味を連想、作物が青いから未成熟の意味を連想でき、だんだん色を表さない人が若いという意味に拡張する。さらに、「青」の拡張意味には、ネガティブな意味、例えば「好ましい」など、とポジティブな意味、例えば「浮気」などがある。最後に、品詞については、もともと形容詞の「青」は、動詞、名詞としても使われている。

第五節 「黄色」の意味分析

2.5.1 「黄色」の基本義

前節では中国語の「青」を分析したが、この節は「黄色」について分析しようと思う。「黄色」菜の花やレモンの皮のような色であるが、本論文ではこれを「黄色」の基本義とする。

例 ①

中国語：金黄的 油菜花散发出一阵阵浓郁的香味。

日本語訳：黄色い菜花は濃い香りを放っている。

例 ②

中国語：太阳像火球一样炎热，又像 黄金 一样金光闪闪

日本語訳：太陽は火球のように熱くて、黄金のような黄色い光が輝いている。

以上は「黄色」の基本義の例である。例①の「金黄的」は「黄金のような色」の意味で、形容詞である。菜花は黄色い花であるが、「金黄的」で修飾すると、菜の花の色の明るさをもっと強調できる。例②の「黄金」は日本語の「黄金」と同じ意味である。例②は比喩の文であるが、太陽を火球と黄金に比喩している。黄金は色が黄色いほかに、輝く特質もある。以上の二つの例も「黄色い」という色相を表している。

2.5.2 「黄色」の拡張義

「黄色」の拡張義について、色との関わりがある意味と、全く色を表さない二つの種類がある。

1、皇帝、権力の象徴

例 ③

中国語：我们都是血肉相连的 炎黄子孙。

日本語訳：私たちみんなも炎帝と黄帝の子孫である。

例 ④

中国語：曹操一直都想 黄袍 加身。

日本語訳：曹操はずっと政権を奪取した（黄色い服を着たく）くて皇帝になる。

以上の二つの例を見よう。例③と④も古い言い方である。「黄色い」は、本来が権力を象徴する色である。宮廷は黄色い、皇帝の服装は黄色いが、一般の人は黄色い服を着るのが禁止される。そのため、「黄色い」は身分の象徴にもなる。例③の「炎黄子孙」炎帝と黄帝の子孫、つまり中国人を指す。民族の意味も含んでいる。この例では「黄」は名詞である。例④の「黄袍」は文字通りでは「黄色い着物」の意味であるが、前述のように、「黄色い」は以前身分の象徴であるから、ここでは「天子の着物」の意味であり、「黄」は形容詞である。「黄袍加身」はつまり皇帝になる意味となる。

2、成熟する

例 ⑤

中国語：一片片庄稼黄了，春天种下的玉米、水稻成熟了，到处是一片片丰收的景象。

日本語訳：広々とした作物が黄色くなり、春で植えたトウモロコシや、水稲など、どこも豊作の景色だった。

例 ⑥

中国語：一颗颗黄灿灿、饱满的玉米粒儿向人展示秋天特有的姿色。

日本語訳：一粒一粒の黄色い、ぎっしりとしたトウモロコシは人々に秋特有の姿を示す。

以上の二つの例も、秋の景色を描写している。秋は作物が成熟の季節であるから、黄色いは豊作のイメージがある。例⑤の「黄了」は動詞であり、「黄色くなる」という意味である。黄色くなるは作物が成熟したの色なので、ここでは色で成熟の意味を表している。例⑥の「黄灿灿」は形容詞であり、「金色に輝いている様子」の意味である。この二つの例も色を表すとともに、作物が成熟した状態も表している。

3、黄河

例 ⑦

中国語： 治黄 的关键是泥沙问题。

日本語訳：黄河を整備する肝心なことは土砂問題である。

「黄河」は中国の2番目の長い河である。河の土砂が多いため、河水の色が黄色い。そのため、「黄河」と名付けた。「治黄」は「黄河を整備する」の意味である。「黄」は「黄河」を指し、名詞として使われている。

4、不健康

例 ⑧

中国語 : 迎面来了一个衣衫褴褛满面病容的穷人, 携着一个十多岁 面黄肌瘦 的小孩子。

日本語訳: 向こうからボロボロの人が 10 歳ぐらいの栄養不良の子供を連れてきた。

例 ⑨

中国語 : 她脸上 蜡黄, 没有一点血色, 瘦削的脸颊上, 两个颧骨像两座小山似的突出在那里。

日本語訳: 彼女は顔色が土気色で、血の気がない。痩せる顔に頬骨は山のように突き出ている。

上記の二つの例を見よう。「黄色い」で人を描写するときは、よく人がやつれる状態を表す。いつも顔と一緒に使い、形容詞である。例⑧の「面黄肌瘦」は肌が黄色くて、痩せる意味である。例⑨の「蜡黄」は蠟のように黄色い。「脸」の後ろに付いている。肌が黄色いは人に不健康なイメージがあるので、この二つの例「面黄」と「脸蜡黄」も顔が黄色い色を表すとともに、体が不健康、栄養不良の意味も表している。

5、注意、警告する

例 ⑩

中国語 : 裁判向犯规的球员出示了 黄牌。

日本語訳: 裁判は反則した選手にイエローカードを出した。

例 ⑪

中国語 : 交通管理部门向发生重大交通事故的单位 亮黄牌。

日本語訳: 交通管理部門は重大交通事故が発生した機関に警告した。

黄色い色はよく人を注意するときに使う。信号が黄色いや、警戒線などがある。例⑩の「黄牌」は英語の「yellow card」から訳されてきて、イエローカードの意味である。スポーツの試合で、規則を違反すると、イエローカードで警告する。「红牌」の「レッドカード」とセットである。例⑪の「亮黄牌」は比喻表現であり、危険に比喻して警告の意味を表している。例⑩と例⑪も「黄牌」を使っているが、例⑩は実物であるが、例⑪は実物を表してはいない。

6、計画が失敗する

例 ⑫

中国語：都怪我，把事情搅黄了。

日本語訳：私のせいで、このことに失敗した。

例⑫の「搅黄了」は事情や計画を失敗したという意味である。「黄了」は形容詞から動詞になる。話言葉でよく使う。

7、腐敗堕落している

例 ⑬

中国語：对于市场上销售的黄色书刊，我们不能让其泛滥成灾，要坚决销毁。

日本語訳：市場で売っているポルノ書籍を氾濫させてはいけない、処分しなければならない。

例 ⑭

中国語：《法制日报》上接二连三地刊登了全国各地扫黄打非的成果。

日本語訳：『法制日報』には相次いで全国のポルノおよび違法製品を取り締まる成果を載せている。

以上の二つの例をみよう。「黄色い」は拡張義1のような本来権力、身分を象徴するイメージがあるが、だんだん腐敗や堕落のイメージも生じてきた。例文⑬と⑭はこのような意味である。例⑬の「黄色书刊」はポルノ書籍の意味である。例⑭「扫黄打非」はポルノおよび違法製品を取り締まる意味である。拡張義1で述べたように、黄色いは本来皇帝の象徴であるが、その後、1945年前後になると、「黄色刊物」「黄色文学」「黄色电影」などといった使い方が相次いで出現した。「黄色い」の腐敗、堕落の意味がだんだん定着するようになった。

8、幼い子供

例 ⑮

中国語：自己作为成名多年的人物，又怎么能怕了一个乳臭未干的黄口孺子。

日本語訳：有名になって何年もたった人がどうして嘴の黄色い子供を怖がるのか。

例 ⑯

中国語：父亲说：“我的女儿已长大成人，玉立亭亭，再不是你从前所见的那个黄毛丫头了。”

日本語訳：娘がもう大人になった。すらりとして美しくて、もう前の小娘ではなかったと父は言った。

以上の二つの例を分析してみると、二つの例も「黄」は幼いの意味である。例⑮の「黄口孺子」の「黄口」は本来嘴がまだ黄色い小鳥をさすが、「孺子」は子供をさす。このように、「黄口孺子」は何もわからない小さな子供の意味になっている。他人の無知を皮肉るときも使う。例⑯の「黄毛丫头」の「黄毛」は子供も髪の毛がまだ黄色い様子であり、「丫头」は女の子の意味である。例⑮は、嘴が黄色い小鳥を子供に比喻する。例⑯は髪の毛がまだ黄色い様子、幼いことを表す。二つの「黄」も形容詞である。

9、老人を指す

例 ⑰

中国語：如今生活好了, 村里无论 黄发垂髫, 还是鳏寡孤独, 都安居乐业, 过上了幸福生活。

日本語訳:今は生活が良くなり、村の老人や子供、身寄りのない人たちなど、皆も落ち着いて暮らし、楽しく仕事をしている。

例⑰は、前述の例⑮と例⑯とは正反対の意味を表している。例⑮と例⑯は幼いという意味であるが、例⑰は老人を指す。例⑰の「黄发垂髫」は老人と子供をさす。「黄发」は髪の毛が白いものから金色になり、長寿であるという意味である。「垂髫」は未成年の子供である。

10、不正転売により利益をもらう人

例 ⑱

中国語：乡村里还有平整的稻田, 老黄牛 在田里干活。

日本語訳:村には平坦な稻田があり、年老いた牛が稲田で耕している。

例 ⑲

中国語：尽管全国各地都在打击 黄牛党, 但在种种利益的驱使下 黄牛党 仍然屡禁不绝。

日本語訳:全国各地でダブ屋を打撃しているが、色々利益の誘惑があるため禁じられない。

以上の二つの例を分析してみよう。例⑱の「老黄牛」と例⑲の「黄牛党」は両方も「黄牛」を使っているが、意味が全く違う。例⑱の「老黄牛」は置いた黄色い牛の意味で、勤労の特質を象徴している。例⑲「黄牛党」は不正転売により利益をもらう団体を指す。特にチケットを高価転売する人を指す。

この節では中国語における「黄色」の基本義と拡張義を検討した。色相だけを表す基本義一つと色だけではなく、他の意味もある拡張義「皇帝、成熟、黄河、不健康、警告、失敗、腐敗、幼い、老人、不正転売」の10種類の例文を挙げながら分析した。この10種類の拡張義からみると、「黄色」も一つの色で正反対の意味を持っている。例えば「黄口孺子」の幼い子供と「黄发垂髻」の老人は正反対の意味である。また、「黄色」は本来皇帝を代表する色である。高貴を象徴する「黄色」は近代になってから、だんだん腐敗のイメージが強くなって定着してきた。これも正反対のイメージだと思われる。さらに、10個の拡張義の中に「皇帝、成熟、黄河、不健康、警告、幼い、老人」の7個は色を表すとともに、別の意味もあるが、「失敗、腐敗、不正転売」の三つは全く黄色という色を表していないということが分析により分かった。最後に、品詞については、成熟を表す「黄了（黄色くなる）」は動詞、黄河を表す「治黄（黄河を整備する）」は、名詞のほか、全部は品詞が変わらなくて、名詞であることが分かった。

この章は中国語における色彩語「黒、白、紅、青、黄色」の意味を分析した。結果を次の【表1】のように示している。並べる順番は色と意味の関わりによって、色との関わりが深いものから深くない順に並べている。

【表1】中国語の色彩語の拡張意味

色 意味	黒	白	紅	青	黄色
1	暗い	明るい	血	黒色	成熟する
2	夜	昼間	調理の方法	未成熟	黄河
3	若い	歳をとる	熟成する	怒る	皇帝
4	潜在力がある	病的	おめでたい	病的	権力
5	利益	葬儀	損失	はっきり	不健康
6	最後	降伏する	処罰	若い	幼い
7	公正厳粛	政治に関わる	お金	東方	古い
8	隠れる	純粋	緊張	浮気	注意警告
9	怒る	狡い	恥ずかしい	好ましい	腐敗堕落
10	怖がる	無い	怒る	完成する	失敗する
11	恥	正しい	嫉妬する	永存する	不正転売
12	不正	正しくない	共産主義		
13	悲しみ		危険		
14	絶望		お花		
15			女性		
16			成功する		
17			人気がある		
18			純粋		
19			何も持たない		

【表1】は『汉语大词典』でとインターネットで調べた中国語の色彩語「黒、白、紅、黄色、青」の意味、と『現代汉语语料库』と『北京语言大学 BCC 汉语语料库』から例文を抽出して分析した意味である。この【表1】から見ると、次のようにまとめできる。

- 1、中国語の色彩語は色を表すほかに、拡張の意味が多くある。「紅」を含む色彩語は最も多くて19個に分析できた。「黒」は14個、「白」は12個、「青」と「黄色」は11個あることが分かった。
- 2、この五つの色の中に、違う色でも同じ意味を表すことがある。例えば、「黒」「紅」「青」も「怒る」の意味がある。どちらも色彩で顔色を表す。「紅」と「黄色」も作物が成熟する時の色によって両方も「熟成する」の意味がある。
- 3、一つの色で、語義から見てもネガティブとポジティブな意味が見られる。例えば、「黒」は公正、正しいなどのポジティブな意味と悲しみ、不正などのネガティブな意味と若い、夜のような中性的な意味がある。「白」は純粋、正しいなどのようなポジティブな意味と狡い、正しくないなどのようなネガティブな意味がある。「紅」「黄色」「青」も同じであることが見られる。
- 4、色彩語について、外来語、特に英語から伝わってきた語がよく見られる。例えば、「ブラックユーモア (black humor)」から訳された「黑色幽默」は悲しみや絶望を感じられる。「ホワイトカラー (white collar)」 「ブルーカラー (blue collar)」のような特殊な使い方は「白領」「藍領」で訳された。
- 5、中国語の色彩語の分析を通じて、一部の色彩語の意味の変遷や歴史についても触れた。例えば、中国語の「白」と「紅」はそれぞれ政治に関わる「白軍」「紅軍」はロシアで使い始めてから中国に伝わってきた。「黄色い」という意味は、以前身分、権力を表す色として現在では墮落のイメージが強くなってきた。

第三章 日本語における色彩語の意味分析

前章の第二章は中国語における色彩語の意味について例文を挙げながら分析したが、本章は日本語における色彩語の基本義と拡張義を明確にする。考察の仕方は前章の中国語と同じように、日本語のコーパスに基づいて考察する。

日本語の色彩語は「黒、黒い」「白、白い」「赤、赤い」「青、青い」「黄色、黄色い」を含む語彙と文が考察対象である。例文は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から検索する。

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)は、現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築したコーパスであり、現在、日本語について入手可能な唯一の均衡コーパスである。書籍全般、雑誌全般、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、法律などのジャンルにまたがって1億430万語のデータを格納しており、各ジャンルについて無作為にサンプルを抽出している。すべてのサンプルは長短ふたつの言語単位を用いて形態素解析されており、さらに文書構造に関するタグや精密な書誌情報も提供されている。

第一節 「黒」の意味分析

前章で中国語の「黒」を分析する際は、「黒」を含む語彙や、慣用語、諺が分析の対象になったが、本章の日本語も同じ方法で分析する。

3.1.1 「黒」の基本義

前章では中国語における「黒」は墨のような色、または黒に近い色を表す意味は最も基本的な意味となるが、日本語も同じように「黒」の色だけを表す意味を基本義とする。

例 ①

先生は、黒板に吊した大きな黒い星座の図の、上から下へ白くけぶった銀河帯のようなところを指した。

例 ②

老けて見えるかどうかは髪の黒さだけでは判断できないと思います。髪の量や髪質・髪型で判断されると思いますよ。

例 ③

歯茎が黒くなるのは、タバコなどの色素の沈着や抗生物質の影響などいろいろな原因はあります。

例 ④

草の上に横になっている仲間の姿を見分けることができたし、まわりを黒黒と取り囲んでいる森の木のように、身じろぎもしないで体をすくくと立てて座っている。

以上は日本語の「黒」の基本義を4つの例を挙げた。4つとも黒色だけを表すが、品詞はそれぞれ違っている。形態からも分かりやすいが、例①の「黒い」は形容詞、例②の「黒さ」は名詞、例③の「黒くなる」は動詞、例④の「黒黒と」は副詞である。

3.1.2 「黒」の拡張義

中国語の「黒」は色を表す基本義の他に拡張義も多くある。日本語も同じように拡張意味が存在していると思われ、色を表すとともに、何らかの他の意味が帯びると全く色を表さないの二つの種類の意味を「黒」の拡張義とする。

1、生きている

例 ⑤

これは一般向け宇宙ツアーの第一歩。自分の目が黒いうちに、月ツアーが組めるように頑張りたい。

例 ⑥

父親が息子のダメなところに、「オレの目の玉の黒いうちに、アイツも気がついてくれれば…」と嘆息をもらす。

例⑤と例⑥の「目が黒いうちに」と「目の玉の黒いうちに」二つとも日本語の慣用句である。その意味は「生きている間」の意味である。この「生きている間」の意味を表す時、いつも「目」で表す。人が死んでしまって白目を向いてしまわないと相対に、瞳の黒いうちということは生きているうちという意味である。ここでの「黒い」は瞳の色が黒いという意味の他に、生きている意味も含んでいる。

2、負ける

例 ⑦

現在は、北部組合で活躍中である。北部組合では、皓也号に白星、山里大力、嵐流に黒星で一勝二敗の成績だ。

「黒星」はいくつかの意味がある。『大辞林』では一つ目の意味は黒く塗りつぶした円や星形の印。二つ目は相撲の星取り表で負けを表す黒丸。三つ目は的(まど)の中央にある黒い丸。四つ目はねらいをつけた所。例⑥の「黒星」は二つ目の転じた意味である。つまり、試合で勝負に負けることの意味である。

3、表に出ない（隠す）

例 ⑧

先遣隊を仕切る羽柴秀長は、兄秀吉の黒子に徹してきた。だが、戦場での力量は秀吉にまさるものがある。

例 ⑨

どれだけ後悔したところで、それは先に立つものでなく、黒幕の正体は刺客の命と道連れに、闇の彼方に吞まれてしまった。

以上の二つの例を見ると、例⑧の「黒子」は本来操り芝居の人形遣いや歌舞伎の後見が着る黒い衣服と頭巾、また、それを着る人の意味であるが、比喩的には自分は表に出ないで、地味な仕事をする人の意味に転じている。例⑨の「黒幕」は本来黒い幕の意味であるが、特に歌舞伎で夜の場面や場面転換などのために用いるものをさす。例⑨の「黒幕」は自分が表面に出ず、かげにいて、計画したり人に指図したりして、影響力を行使する意味である。「黒子」と「黒幕」も隠れていて表に出ないという比喩的な意味である。

4、利益

例 ⑩

それも日本に負けないレベルのものをつくるようになったのです。中国の対米黒字が世界一に開放政策が始まって九年でその実績が出てきたということです。

「黒字」は本来黒い色で書いた文字であるが、例⑩は利益が出る意味である。一般的には収入が支出を上回って剰余が生じた状態、または剰余そのものをさす。会計書類や帳簿上でこの剰余を黒インクで記すことから、この名称が生じた。「黒字」に対し、支出が収入を超過した場合や預金を借り越した場合などに赤インクでこれを記すことから、「赤字」の名称が生じた。日本語の「赤字」「黒字」は西洋語からの借用である。

5、恥

例 ⑪

ガンダムの中で黒歴史中の黒歴史と言われるダブルゼータで一際輝く存在がブルだと言っても過言では有りません。

例⑪には二つの「黒歴史」がある。「黒歴史」は「過去の歴史」という意味合いに語感がいまって、今日では主に「無かったことにしたい、忘れたい過去」といった意味合いのネット用語として広まっている。具体的には、他人に触れられたくない、あるいは自分でも恥ずかしく思う自分の過去のことである。本来は、当事者あるいは第三者が何らかの事情で意図的に覆い隠したい過去という意味合いが強い

言葉であったが、俗語として広まる過程において、「誰の意図によるでもなく、いつの間にか忘れられたり風化したりしてしまったもの」を指す意味合いも加わっている。

6、悪い

例 ⑫

おまえも、腹黒い 商人連合の仲間とやらも、命あるかぎり、今日という日を後悔することになるのだ

例 ⑬

だが恋する女は、そんな曖昧さでは従っていけない。本質的にストイックで 黒白をはっきりさせたい 性だけに、中途半端な答えでは容易に納得しない。

例 ⑭

朱に交われば赤くなる、墨に染まれば 黒くなる。

上記の「黒」の「悪い」意味項目で三つの例を挙げた。例⑫「腹黒い」は形容詞であり、心がねじけている、心の中に悪巧みや陰謀をもっているという意味である。例⑬の「黒白をはっきりさせたい」の原型は「黒白をはっきりする」である。正邪・善悪など、物事の道理をはっきりさせるという意味であり、「黒白」の「黒」は邪、悪を代表し、「白」は正、善を代表している。例⑭の「朱に交われば赤くなる、墨に染まれば黒くなる」は、慣用語である。中国語にも同じの「近朱者赤，近墨者黒」という慣用語がある。その意味は人は環境や交わる友によって良くも悪くもなることのたとえである。「墨」は悪い環境を、「黒」は悪くなることを指している。上の三つの例の中の「黒」も悪い意味である。

7、犯罪

例 ⑮

警察はその男を 黒 とみている。

以上の二つの例を見よう。例⑮の「黒」は犯罪などの容疑が濃い、不正が感じられるという意味である。犯罪の容疑があることを俗に「黒」と表現する。「ブラック企業」や「ブラックマーケット」など、不正な事柄や非合法的な事物を「ブラック」と表現することがある。

8、多い

例 ⑯

私が長老から話を聞いていると、次から次に村人が集まってきて、いつの間に周囲は 黒山 の人ばかり。なかには女性もいますし、赤ん坊もいます。

例⑩の「黒山」は、人が大勢群がり集まっているさまをいう語である。よく「黒山の人だかり」で表す。黒山は、髪の毛の色を表していて、頭数(あたまかず)が多く、山のように人が集まっているということのたとえである。

9、精通している

例 ⑱

手段が 玄人 でありながら、目的が素人なのだ。冷静に考えても、これは最悪の組み合わせといえる。

例⑱の「玄人」の「玄」とは、赤や黄みを含んだ深みのある黒色のことである。「玄」の色は「黒」を意味し、玄というのはまた、一筆の濃墨で書くのではなく、淡い墨を重ねて刻していき、真っ黒の一步手前で控えた色である。「玄人」はある一つの事を職業、専門としている人、技芸などに熟達した人である。「素人」とは対義である。

この節では日本語における「黒」の基本義と拡張義を分析した。基本義は中国語と同じ視覚で見える「黒い」色相を指す。拡張義については9個の意味を分析できた。それぞれは「生きている、負ける、隠す、利益、恥、悪い、犯罪、多い、精通している」である。この9個の拡張意味の中に、「生きている、利益、多い、精通している」はポジティブな意味で、「負ける、隠す、恥、悪い、犯罪」はネガティブな意味である。中国語の拡張意味と比べて、日本語の「黒」の拡張意味はより少ないことがわかる。

第二節 「白」の意味分析

前節では日本語の「黒」の基本義と拡張義を論じた。この節では日本語における「白」について論じたいと思う。分析の対象は「白」「白い」を含む複合語、慣用語、ことわざとする。

3.2.1 「白」の基本義

白は人間の目に見える光のすべてを反射する物体から感じる色という概念である。雪のような色、または白に近い色で、黒の対語である。

例 ①

あたり一面を 白い雪 が覆い、地を這う小動物から草木までもが深い眠りにしている。

例 ②

歯が 白くなる 歯磨き粉を先日買いました。1週間で 白くなる と記載して有りますが全く白くなりません。

以上は「白い」の色相を表す意味を二つの例を挙げた。例①の「白い雪」の「白い」は形容詞であり、例②の「白くなる」は動詞として使われている。

3.2.2 「白」の拡張義

中国語の「白」は色を表す基本義の他に拡張義も多くある。日本語も同じように拡張意味が存在していると思われ、色を表すとともに、何らかの他の意味が帯びるものと全く色を表さないという二つの種類の意味を「白」の拡張義とする。

1、純粹

例 ③

当時の風潮に流されることなく、質朴・潔白を旨とする一流派のあったことを銘記しておきたい。

以上の例③を見ると、「潔白」は、純粹の意味である。「潔白」はもともと清潔で汚れのないこと、真っ白なことを意味するが、この語義を転じて、心や行いがきれい、後ろくらいところがないことも意味する。「潔白」は名詞と形容動詞にも使われている。

2、惚ける

例 ④

しかし、現場の監視カメラに写っていた犯人は別人で、2人は白を切るばかり。

例④の「白を切る」とは知っていながらわざと知らないふりをする意味である。「しらを切る」の「しら」は「知らない」の略で、「白」は当て字と言う。「切る」は、「言い切る」や「啖呵を切る」などの「切る」と同じで、目立つような口ぶりや態度をする意味である。そこで「白を切る」は、「知らないと云い切る」の意味となる。

3、正しい

例 ⑤

家族のように思っていた君と、公の場で黒白を争うとは残酷な話である。

例 ⑥

一時間先には自分で黒白をつけなければならない。今までのように口先だけのきれいごとでは済まされないのだ。

以上の二つの例を見よう。例⑤の「黒白を争う」と例⑥の「黒白つける」は慣用句である。二つとも物事の正邪、善悪、是非をはっきりさせるの意味である。前節の「黒」を論じる際に、「黒」はよく悪いことを意味するに対して、「白」はよくいいこと、正しいことを意味する。そのため、例⑤と⑥の「白」も正しいことを指す。「黒」は正しくないことを指す。

4、無罪

例 ⑦

容疑者は白だった。

例 ⑧

だから私としては、身の潔白を証明するためにも、早いところ真犯人を見つけたいのだ。

「白」は「黒」の対義語のため、「黒」は犯罪の意味があるが、「白」は無罪の意味がある。例⑦の「容疑者は白だった」の「白」は名詞であり、「無罪」の意味である。例⑧の「潔白」はきれいに他に、名誉には清白の意味がある。

5、勝利する

例 ⑨

大量15得点ロツテ 15 - 5 ダイエー ロツテの黒木が2001年7月7日以来の白星をつかんだ。5回で5四球と苦しんだが、3安打、0点に抑えた。

『国語辞典』には「白星」について二つの意味がある。一つ目は中を塗りつぶしていない、丸または星形のしるしである。二つ目は相撲の星取り表で勝ちを表す白い丸である。転じて、試合に勝つこと、また成功・手柄についていう。例⑨の例文の全体を見ると分かるように、ここでの「白星」は転じた試合に勝つという意味である。「白星」は名詞であり、よく「白星をあげる」「白星をつかむ」で使われる。

6、降伏する

例 ⑩

装甲車を下りて一人の大尉が下士官兵七、八名を連れ白旗を掲げながら近づいて来た。白旗を掲げているのが異様に思えた。

例⑩の「白旗」は名詞であり、降伏の意味である。白旗は広義では無地で白色の旗を指す。近代以前の社会においては、日本の武士集団にこれを軍旗とする例が見られ、近代以降でもフランス海軍における軍艦旗としての使用例がある。また18世紀末のフランス革命期に始まる王党派や、あるいは共産主義の赤色に対する反共主

義の旗も白旗であった。しかし、近代以降に成立した国際社会にほぼ共通する認識では、戦時国際法に基づき、戦争などにおいて交戦対象にあたらぬことを相手に知らせるための表明手段としての旗の一つであり、主として停戦交渉や降伏の際に用いられるものである。降伏目的での白旗の使用は、西暦 25-205 年の中国漢時代東部地域で始まったと考えられていたが、実際にはもっと古い可能性がある。白旗の使用が選ばれた理由は、古代世界において調達のし易さから選ばれたと考えられる。

7、気分を壊す

例 ⑪

以前に他人から「宴会で音痴が歌うと拍手喝采ものだが、歌い上手が歌うと 座が白ける」というのを聞いたことがある。

『国語辞典』には「白ける」は4つの意味がある。一つ目は色が褪せて白っぽくなるである。二つ目は興がさめて気まずい雰囲気になるである。よく「座が白ける」で表す。三つ目は具合が悪くなる。きまりが悪くなるである。四つ目は明らかにする。また、包み隠さず話すである。例⑪は「座が白ける」ため、気分壊すという意味に属する。

8、何もない

例 ⑫

「ぼくは結婚しませんよ」「結婚式」と聞いて一瞬 頭が真っ白になった が、ジョナサンはすばやく口をはさんだ。

例 ⑬

答案を 空白 で出す。

「何もない」の意味項目では二つの例をあげた。まず、例⑫「頭が真っ白になる」は、見た目で頭が白くなるのではなく、非常にあわてて正常な判断ができなくなることや極度の緊張や恐怖などによって何も考えられなくなることを指す。そのため、例⑫は考えがないことを指す。例⑬の「空白」何も書き入れてないことを指す。

9、冷淡

例 ⑭

社長が賄賂容疑で逮捕されるニュースが大々的に報道されると、社員まで 白い目 で見られた。

例⑭の「白い目で見ると」は慣用句であり、冷淡な目つきで見るとを意味する。下から睨むような目つきをすると白目が多くなることから由来した。冷淡や軽蔑の気持ちが感じられる。

10、政府文書

例 ⑮

委員会は11月、白書を受け入れ、憲法草案作成小委員会を任命して総ての任務を完了した。

「白書」とは、日本の中央省庁の編集による刊行物のうち、政治社会経済の実態及び政府の施策の現状について国民に周知させることを主眼とするものである。英国において、内閣が議会で提出する公式報告書をその表紙の色からホワイトペーパー (White Paper) と呼んでいたことから日本でもそれに倣って政府が作成する報告書の通称を白書と呼ぶようになった。

この節では日本語における「白」の基本義と拡張義を分析した。例文を挙げながら拡張義を10個に分類できた。白はもともと物事の表面を見た人間が知覚する無彩色、膨張色であるが、言葉にすると、色々な意味が生じてきた。10個の拡張意味の中に、「勝利する、降伏する、冷淡、政府文書」は「白色」を表すとともに、別の意味もある意味項目である。「純粹、惚ける、良い、無罪、気分を壊れる、何もない」の6項目は全く「白色」を表さない。また、中国語の「白」の読み方が一つだけと比べて、日本語の読み方はいくつある。例えば、「白い(しろ)」「白ける(しら)」「白(はく)」がある。さらに、品詞から見れば、白の色彩語は形容詞、名詞、動詞にも使われる。語義から見れば、中国語と同じく、ポジティブな意味とネガティブな意味両方ともある。

第三節 「赤」の意味分析

前節では日本語の「白」の基本義と拡張義を検討した。この節では日本語における「赤」について論じたいと思う。分析の対象は「赤」「赤い」「朱」「紅」を含む複合語、慣用語、ことわざとする。

3.3.1 「赤」の基本義

赤は色のひとつで、熟したイチゴや血液のような色の総称である。色彩では赤いは色々な色があるが、色彩語では「赤」を含む語だけを考える。そのため、赤の基本義は色だけを表す意味とする。

例 ①

雪が強く降り始め、積るような勢いになってきました。まだ紅葉が残っているノムラカエデをバックにすると、白い雪がはっきりと見えます。

例 ②

そのため、徳川幕府三代家光の時代からは、本尊供養料として十石の朱印が与えられている。

例 ③

赤信号で強引に横断する歩行者と自転車が居て、とても危険である。

以上の三つの例を見ると、例①の「紅葉」の「紅」は、葉っぱの赤みがある色をさす。例②の「朱印」は朱色の印肉（朱肉）を用いて押印した印章のことである。「朱」は赤いである。例③の「赤信号」は交通信号機や鉄道信号機で停止を指示する。転じて注意、警戒すべき危険な状態、兆しのことの意味もあるが、ここでは赤い色だけを意味する。三つの例はそれぞれ赤い色を指す「紅、朱、赤」三つの表記を示した。

3.3.2 「赤」の拡張義

中国語と同じように、「赤」は色を表すとともに、別の意味もある。例えば、「この人は赤だよ」を例にすると、「赤」は共産主義の意味である。このような意味を「赤」の拡張義とする。

1、赤くなる

例 ①

酒に弱くて顔がすぐに赤くなるのは遺伝の問題であって、あなたの責任ではないので、恥じ入る必要はない。

例 ②

その時から彼の心は落ち着かない。人に会うとどうしても顔が赤くなる。

以上の二つの例を見よう。二つの例「顔が赤くなる」だが、赤面は顔の血管に血液を貯めることによって起こる。例①は酒を飲むの生理的理由のため顔が赤くなる。例②は恥ずかしいという感情的な理由のため顔が赤くなることである。

2、損失

例 ③

94年度以降は、循環的財政赤字が96年度に景気が回復したことにより、一時減少したものの、97年度に再び悪化した。

「赤字」はもともと赤いインクで書いた文字を指すが、簿記で、欠損を赤インクで記すところから、支出が収入や予算より多いという損失の意味になる。例③はこ

の損失の意味である。これは西洋の簿記方法が言語に表現として取り入れられることを意味している。

3、共産主義

例 ④

ところがアメリカは、一九五〇年に「マッカーシズム」といわれる狂乱の赤狩り運動が盛んとなる。

「赤狩り」は共産主義者または社会主義者、さらにはその同調者を政府が逮捕したり追放したりする行為である。そのため、「赤」には共産主義の意味がある。

4、おめでたい

例 ⑤

お祭りなので、今日は我が家もお赤飯炊いてお昼に食べました。

例 ⑥

その時に、紅白饅頭をいくつか注文して、親戚に配りました。

例⑤の「赤飯」はもち米をアズキの煮汁につけ薄赤く染めた飯であり、吉事の際の食事とされる。例⑥の「紅白饅頭」はその名の通り赤と白の2色のまんじゅうである。お祝い用の菓子である。昔から、日本ではお祝いごとに関係するものには「紅白」が使われることが多いから、「赤」と「白」と一緒に使うと、おめでたい意味がある。

5、全く

例 ⑦

顔も名前も知らない赤の他人のために今にもまた崩れてきそうな瓦礫の中で必死に私を助け出してくれたんです。

例 ⑧

一年前は明神の男坂で、今日は向島の花見で赤恥をかかされたのですから。

例 ⑨

これが真っ赤な嘘、たまたま居酒屋で隣にいた酔っ払いが話していたのを受け売りしただけだと言う。

以上の三つの例を見よう。「赤」は「明らか」と同源で「全く」「すっかり」の意味があるため、例⑦の「赤の他人」は全く縁のない他人、何の関わりもない他人のことである。「赤」は「全くの」の意の強調語で「他人」を強める。例⑧の「赤

恥」は人の前で受けるひどい恥のことである。この例の「赤」も「恥」をもっと強める。例⑨の「真っ赤」は大きい、多いと言った意味を持ち、「大きな嘘」を意味する。

6、危険警告

例 ⑩

指のささくれは体の赤信号？指にささくれが起こるのは、栄養が偏ったり、指先が乾燥していることが原因。

例 ⑪

今回のテストの最高はこの数学。最低は日本史の赤点ギリギリの23点でした。

「赤信号」はもともと危険や停止を示す赤色の交通信号であるが、例⑩は体の危険が迫った状態であることを比喩している。例⑪の「赤点」は赤い色で記すことから落第点の意味であるから、不合格を注意する。そのため、「赤」は注意警告の意味がある。

7、安売り

例 ⑫

売り場には「SALE」「30%OFF」などの赤札があちこちに掛かり、午前十時の開店とともに買い物客がどっと詰め掛けた。

例⑫の「赤札」はお買得商品あるいは目玉商品などを示す値札や店頭表示のことをいい、通常、目立つように赤い紙を使うことから赤札という。最近では、価格が購入のきめ手となる比重が低下してきているため、このような低価格を前面に出した店頭表示は少なくなっている。

8、女性

例 ⑬

中に紅一点、齢の頃二十二、三の女性がいた。

「紅一点」は「万緑叢中紅一点」の略である。中国の王安石が作った「詠柘榴詩」という詩にある言葉で、「緑の草むらの中に一つだけ赤いザクロが咲いている」ということを指していた。現在では意味を転じて、男性ばかりの中に女性が一人だけ混ざっていることや、ひととき目立つ存在のことを言う。例⑬の「紅」は女性の意味である。

9、純粹

例 ⑭

大人は赤子の心を失わず。

例⑭は日本語のことわざである。それは高德の人は、赤ちゃんのように純粹な心をいつまでも失わず、それをひろめて大きな徳をそなえるようになったのだという意である。そこで、「赤ちゃん」や「赤い心」などのような語は純粹の意味がある。

この節では日本語における「赤」の基本義と拡張義を説明した。「赤」を含む複合語、慣用語、ことわざを分析した結果、色彩だけを表す他に、9個の拡張意味を分析できた。まず、拡張義の中に、色を表すとともに、別の意味もあるのは「赤くなる、損失、おめでたい、危険警告、安売り」があり、全く色を表さないものとして「共産主義、全く、女性、純粹」がある。また、語源から見れば、外国の影響を受けた意味もある。例えば、「損失」を意味する「赤字」は英語の‘in the red’と対応し、西洋語からの借用と見られる。「純粹」を意味する「赤い心」や「赤ちゃん」は中国の孟子の詩から使い始め、日本語に訳して伝わってきた。さらに、「赤」を含む色彩語は名詞（例えば：赤ちゃん）、動詞（赤くなる）、形容詞（紅一点）それぞれもある。最後に、中国語の「紅」と比べて、日本語の方は意味がより少ない。同じ意味もあるが、中国語にはないが、日本語にはあるものもある。例えば接頭語として使われる「赤恥」「赤の他人」などである。

第四節 「青」の意味分析

前節では日本語における「赤」の基本義と拡張義を分析したが、続いてこの節では日本語の「青」について検討していきたい。青は基本色名の一つである。青は英語のblue、外来語のブルーに相当する。寒色のひとつである。視覚の青色は言葉にすると、どのような意味が生じるかを明らかにするために、「青」「青い」「青色」、また外来語の「ブルー」を含む複合語、慣用語、ことわざが分析の対象となる。

3.4.1 「青」の基本義

「青」の色相だけを表す意味は、基本義となる。青は晴れた日の空のような色の総称である。また、「あお」は緑色などの寒色全体を指して用いられることがあり、このように青と緑が明確に分節されてこなかった例も多い。また、「あお」と訓じられる漢字もいくつある。例えば：蒼、碧がある。

例 ①

澄んだ青空のもとに、紫色の丘が続いている。陽光を謳歌する林。

例 ②

バスが通る東西は通行量が多いので、青信号の時間のほうがずっと長くなっています。

例①と②は「青」の複合語であるが、「青」は違う色を指す。例①の「青空」はブルーで、青の基準色である。例②の「青信号」は緑色である。中国語と違い、中国語では「青信号」は「绿灯」ので表記する、色と言葉は統一している。「青信号」の他に、「青菜」の「青」も緑を指す。中国語の「青」も日本語と同じブルー、緑色両方も表しできるが、中国語の方は緑色を指す場合が多い、日本語ではブルーを指すケースが多い傾向が見られる。また、各地方言で「あお」は黄色まで指していたとされ、『大日本方言辞典』によれば、青森・新潟・岐阜・福岡・沖縄といった地方では、青は黄も意味した。

3.4.2 「青」の拡張義

中国語の「青」は色を表す基本義の他に拡張義も多くある。日本語も同じように拡張意味が存在していると思われ、色を表すとともに、何らかの他の意味が帯びると全く色を表さない二つの種類の意味を「青」の拡張義とする。次に「青」の拡張義について分析する。

1、安全

例 ③

交通ルールのようなものだ。車は左側通行、青信号で進み、赤で止まる。そういうルールが徹底しているから、車がスムーズに流れるのだ。

「青」の基本義で述べたように、「青信号」緑色の交通信号であるが、進行しても安全であることを示す。この意味を転じて、行先が安全であることも比喻している。

2、病的

例 ④

病院のベッドに深く沈んだ姉の青白い顔が浮かぶたび、やりきれない後悔に押し潰されそうになる。

例④のように、「青白い」は形容詞であり、よく「顔」と一緒に使う。血の気のない顔色をして、病気を意味する。

3、怒る

例 ⑤

別の部長刑事が怒りのあまり 青筋を立て、かすれ声でつぶやいた。この仇はかならず討つからな。

「青筋を立てる」は慣用語であり、怒る意味である。人は激しく怒る時、または、すごく興奮する時、顔に静脈を浮き出させ、青筋が見られる様子からこの意味を転じてきた。例⑤には「怒り」と対応して、この例では「怒る」という意味である。

4、春

例 ⑥

戦場の跡は草むらと化している。「国破れて山河あり、城春にして 草青みたり」と、笠を置いて、時の経つのも忘れて涙を流した。

春は万物が新たに生き生きなる季節であり、草や木の葉は改めて緑色になる。そのため、緑色は春の象徴である。前で述べたように、日本語では「青」は緑とブルー両方も表しできるから、例⑥の「草青み」は前の「城春」と対応して、「青」は春を意味する動詞として使われる。

5、未成熟である

例 ⑦

当時の私は 青二才 で、こうした叫びを、ならず者のように喜んでいた。

例 ⑧

社会的な運動に参加すると、「まだ 尻が青い」とか、「信心が足りない」と言われるようなこともありました。

例 ⑨

そういった現実の慣習を無視して、いきなり文学や思想を論じるのを 青臭い理想論 と見なしたことも、そこからきていた。

例 ⑩

容貌魁偉な美丈夫でもあって、いつも口許に虚無的な白笑を浮かべていた。決して 青白いインテリ ではなかった。

上の三つの例を見よう。例⑦の「青二才」について、『大辞林』では「青」は未熟の意で、「二才」は若者の意の「新背(にいせ)」の変化した語である。全体では若くて、経験の足りない男の意味である。あざけりや謙遜の気持ちを込めていう。例⑧の「尻が青い」は幼児の尻は青みがかっていることから、未熟で、一人前でない意味を転じて来た。例⑨の「青臭い理想論」はまだ実現できない未熟の考えを意味する。例⑩の「青白いインテリ」慣用語であり、理屈ばかり多くて、実行力に乏

しい知識人をあざけってという言葉である。四つの例も「青」は経験がない未熟の意味を表す。

6、良い

例 ①

隣の芝生は青い。

例①の「隣の芝生は青い」は、日本語の諺である。類似する諺「隣の花は赤い」も同じ意味である。その意味は自分の家の芝生よりも、隣の花の方が綺麗に見えてしまうという意味である。これは自分の家の芝生は、庭に出て正面から眺めるため、傷んだところがよく見えるためであり、隣の花の庭は柵を挟んだ斜めから見下ろして見るため、傷んだところが見えないから綺麗に見えてしまう。転じて、自分以外の人は幸せなように見えていても、実際はそうでもないという。

以上ではこの節の日本語の「青」について検討してきた。色相を表す他に、「青」の拡張義を6個に分析できたが、中国語と比べては数が少ない。ほとんどは「青」に関する慣用語と諺を通じて分析した。品詞からみれば、名詞、動詞、形容詞も使われるが、形容詞の方が多い。「青」は顔と一緒に使う時、よく人の怒りや驚きなどの情緒を表す。また、「青」は春の植物を修飾すると、生き生きとしたイメージがあるが、人を表すと、ほとんどは人が若い、経験が足りないイメージになる。

第五節 「黄色」の意味分析

前節では日本語の「青」の基本義と拡張義を論じた。この節では日本語における「黄色い」について論じたいと思う。基本義は色相を表す菜の花のような色、またそれに近い色とする。分析の対象は「黄」「黄色」「黄色い」を含む複合語、慣用語、ことわざとする。

3.5.1 「黄色」の基本義

黄色は、基本色名の一つであり、色の三原色の一つである。現代日本語では一般に「黄色」（名詞）、「黄色い」（形容詞）と呼ぶ。複合語内の形態素としては、黄緑、黄信号など、「黄」が少なくない。

例 ①

現在では、うなぎのほかにも、ビタミンAをたっぷりふくむニンジン、ホウレンソウ、卵黄などが目の強化に役立つことがわかっている。

例 ②

また人類が到達した最高段階の進歩を代表する。白人の次に半歴史的な民族と呼び得る 黄色人種 があり、これは文明上、褐色人種よりも優れている。

以上は「黄色い」の色を表す基本義を二つの例を挙げた。例①の「卵黄」は名詞で、卵の黄色い部分である。多量に蓄積されると黄色を呈するのでこの名が与えられている。例②の「黄色人種」は皮膚の色により分類された人種の総称である。アジア大陸に大部分が分布する。白色人種と黒色人種と比べて、皮膚の色は黄色を帯びていることに由来する。

3.5.2 「黄色」の拡張義

他の色と同じように、黄色はもともと視覚から色彩を表すが、言葉に転換すると、超感覚的な表現も出てくる。意味の方にも色だけではなく、他の意味も出てくる。このような色以外の意味を「黄色い」の拡張義とする。

1、未熟である

例 ③

彼は、自分の肩書の自慢ばかりする 嘴が黄色い 学者ではなく、研究を愛している本当の学者だ。

例 ④

さやうに 口脇黄ばみ たるぬしたち、出し入れては見むとする。

以上は「黄」を含む日本語の慣用語について二つの例を挙げた。例③の「嘴が黄色い」は、年が若くて経験の足りない意味である。嘲る気持ちも含めている。ひな鳥の嘴が黄色いところから由来する。例④の「口脇黄ばむ」も同じ、口のあたりがまだ黄色みを帯びている。まだ年若くて経験が乏しいことをあざけって言う言葉である。そこで、二つの例の「黄色い」は未熟の意味である。

2、注意する

例 ⑤

私のクラスでは、制限時間の5分前にグリーンカード、2分前に イエローカード、予定時刻を過ぎた時点でレッドカード提示しています。

例 ⑥

まもなく○番線に、電車がまいります。黄色い線 までお下がり下さい。

以上の二つの例は黄色を表すと共に、注意の意味も含んでいる。例⑤の「イエローカード」とは一部のスポーツにおいて非紳士的行為等を行った選手に対して審判が警告を宣するときに表示する黄色のカードのことである。また「イエローカー

ド」という語自体が一般化して「次に同じ事を行えば何らかの措置をとる」というニュアンスを持って使われることも多い。例⑥はよく駅で聞かれる話である。「黄色い線」はもちろん色を表すが、「黄色い線」を超えると危険になるニュアンスもある。

3、声が高い

例 ⑦

自民党本部で行われる婦人部会がありますが、女性から黄色い声がかかるのは、実は小泉首相ではなく、安倍さんなんです。

「黄色い声」は女性や子供の甲高い声である。この慣用句は黄色いの視覚で聴覚の声を表す。「黄色い声」の由来は三つの説がある。一つ目は仏教のお教説である。昔はお経の音の高低を表す音符のようなものに、色を使っていた。二つ目は声を色で表す説である。江戸の末期に声を色で表すことが流行し、この時に耳障りなときに使う声の表現として「黄色」が使われた。三つ目は漢字の「黄」に由来した。前述の「未熟」の意味と関連があり、甲高い声を子供らしい声として、「黄色い声」と表現したという説である。

この節では日本語における「黄色い」を論じた。他の色と比べて、色を表す意味の他に、拡張意味は三つしかなかった。「未熟である」と「注意する」は色と関係があるが、「声が高い」は全く色を表さない。品詞の方では形容詞として使われることが多い。

この章は日本語における色彩語「黒、白、紅、青、黄色」の意味を分析した。結果を次の【表2】のように示している。意味並べる順番は意味と各色の関わり合いの強さによって並べている。

【表2】日本語の色彩語の拡張意味

色 意味	黒	白	紅	青	黄
1	生きている	勝利する	損失	春	未成熟
2	負ける	降伏する	恥ずかしい	安全	注意する
3	隠す	政府文書	共産主義	病的	経験がない
4	利益	冷淡	おめでたい	怒る	声が高い
5	多い	純粹	安売り	恐怖	
6	恥	惚ける	危険警告	未成熟	
7	悪い	気分を壊れる	純粹	経験がない	
8	犯罪	何もない	女性	良い	
9	精通する	正しい	接頭語:全く		
10		無罪			

上記の【表2】を見ると、次の点をまとめできると思う

- 1、全体的には各色彩とも、中国語と比べて拡張意味はより少ない。最も多いのは「白」で、10個がある。「黒」と「赤」は9個、「青」は8個、「黄」は最も少なく、四つしか分析できなかった。
- 3、「黒」はネガティブな意味が多くて、9個の中に、「負ける、隠す、恥、悪い、犯罪」の五つを占めている。「利益、精通する」の二つはポジティブな意味で、「生きている、多い」は中性的意味である。「白」は「勝利する、純粹、正しい、無罪」の四つはポジティブな意味で、「降伏する、冷淡、惚ける、気分を壊れる、何もない」の五つはネガティブな意味で、「政府文書」は中性的な意味である。「赤」は「おめでたい、純粹」はポジティブな意味、「損失、恥ずかしい、危険警告」はネガティブな意味で、「共産主義、安売り、女性、接頭語」は中性的な意味である。「青」はネガティブな意味が多くて、8個の中に5個を占めている。「黄」は全部ネガティブな意味と言える。
- 3、色で人の感情や気持ちを表すのが多い。例えば、黒で恥、白で冷淡、赤で恥、青で怒り、恐怖がある。さらに、「黒」と「白」は正反対の色であることから意味の方にも正反対の意味が見られる。「黒」は「負ける」に対し、「白」は「勝利する」がある。「黒」は「犯罪」に対し、「白」は「無罪」である。さらに、違う色で同じ意味を表すのも見られる。例えば、「青」と「黄」も「未成熟」「経験がない」の意味がある。
- 4、最後に、「青」は視覚ではよくブルーを指すが、言葉にすると、緑色から拡張する傾向が見られる。

第四章 日中色彩語の比喩的意味比較

第二章と第三章はそれぞれ中国語と日本語に色彩語の意味を分析した。意味の共通点が数多く存在し、相違点もある。分析できた意味は全部比喩的な意味ではないが、本章はこの五つの色を含む色彩語の比喩的意味を明確するとともに、日本語と中国語の異同をも検討して生きたい。また、色と比喩的な意味との関連性の検討を試みる。

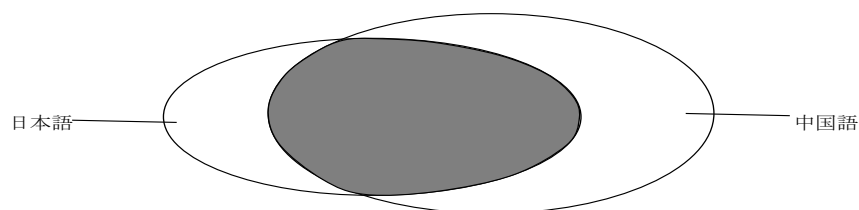
- 【注】○は当言語に該当意味があること；
 ×は当言語に該当意味がないこと；
 +は該当意味がポジティブな意味であること；
 -は該当意味がネガティブな意味であること；
 中性は該当意味が中性的な意味であること；
 △は該当意味がポジティブとネガティブな意味両方もあること。

【表三】黒の比喩的意味比較

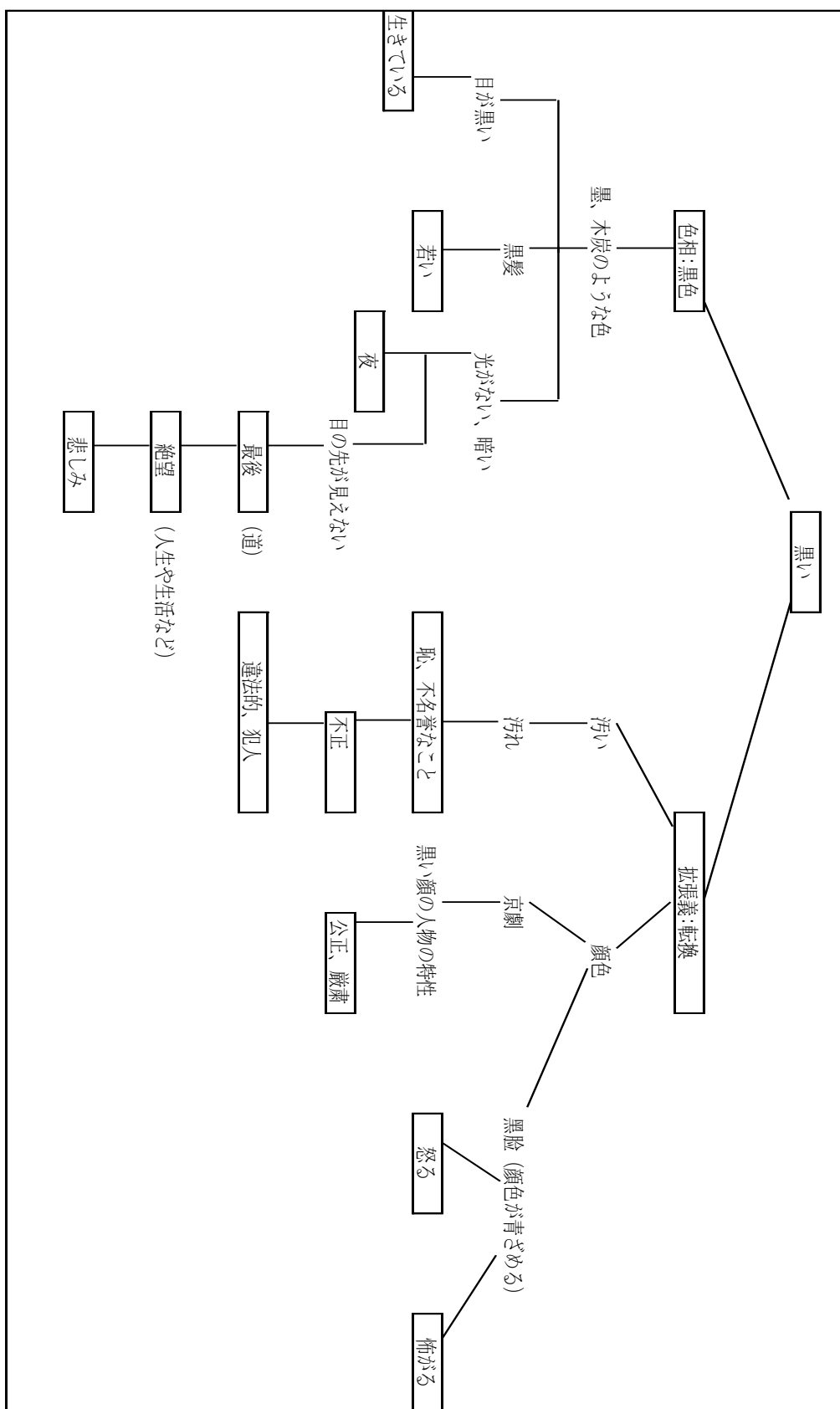
意味項目	生きている	負ける	隠れる	利益	恥	悪い
日本語	○	○	○	○	○	○
中国語	×	×	○	○	○	○
意味傾向	+	-	-	+	-	-
意味項目	違法的	夜	若い	最後	厳粛	怒る
日本語	○	×	×	×	×	×
中国語	○	○	○	○	○	○
意味傾向	-	中性	+	-	+	-
意味項目	怖がる	悲しみ	絶望			
日本語	×	○	×			
中国語	○	○	○			
意味傾向	-	-	-			

上記の【表三】から、黒いというのはもともと視覚的な色である。色彩に対する認識は日中も同じであるが、言葉や言語表現にすると、比喩的意味は日本語と中国語には差異が存在していると分かる。同じ意味もあるが、それぞれ違う意味もある。日本語と中国語の関係は次の【図1】のように示している。また、黒の比喩的意味はどのように生じたのかは【図2】のように示すことができると思っている。

【図1】黒の日中関係図



【図2】黒の意味関連図⁶



⁶意味関連図は全部の意味ではなくて、できる限り多くの意味を関連づけるものである。後ろの図も同じである。

【図1】は二つの楕円で日本語と中国語の「黒」の意味を表し、重なっている黒い部分は共通の意味である。共通の意味を除いて、日本語にはないが中国語にある意味は、中国語にないが日本語にある意味と比べて数多い。また、ネガティブな意味は15個のうちの10個を占めている。

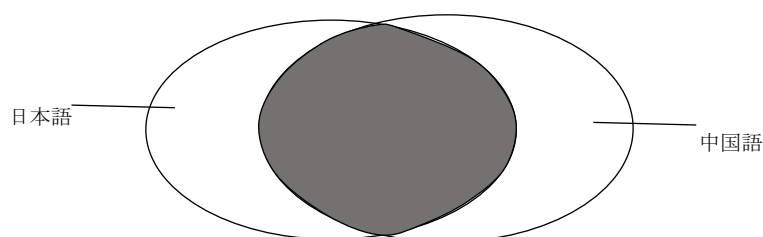
【図2】は色と意味との関連図である。この図には、日本語と中国語両方の意味も含めている。視覚の「黒い」は言葉の表現でどのように一步一步で比喩的意味を生じたのかを試みた。大きく色と二つの拡張義の三つに分けて、色と意味を関連づけた。黒色の実物から意味を広げ、顔色から人の心理、情緒などのような抽象的な意味を広げた。また、「黒」の矛盾する意味「不正」「公正」が生じた原因も明らかに見える。

【表四】 白の比喩的意味比較

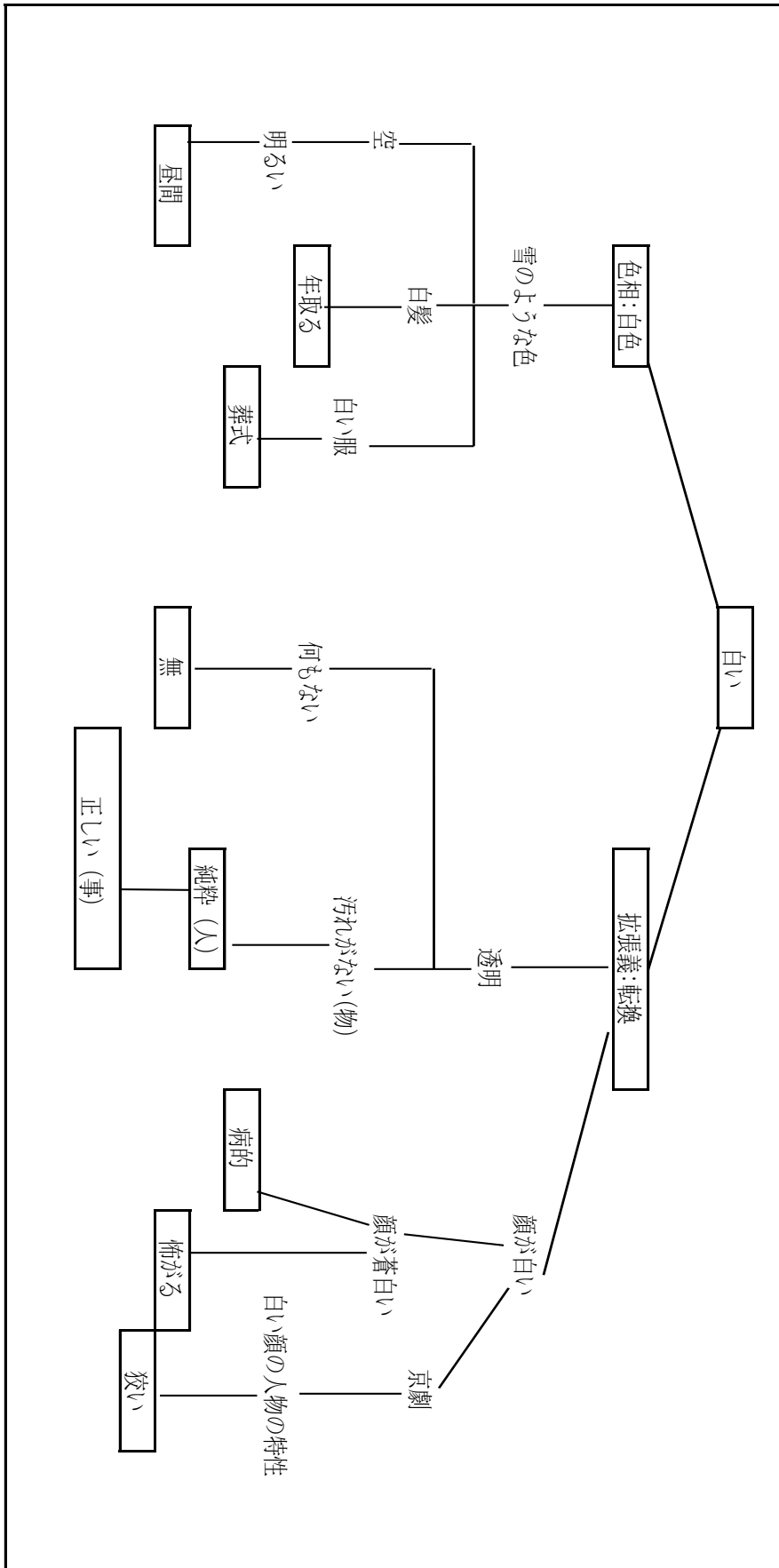
意味項目	勝つ	降伏する	純粹	冷淡	無	昼間
日本語	○	○	○	○	○	○
中国語	×	×	○	×	○	○
意味傾向	+	-	+	-	△	中性
意味項目	年取る	病的	正しい	正しくない	狡い	葬儀
日本語	○	×	○	×	×	×
中国語	○	○	○	○	○	○
意味傾向	中性	-	+	-	-	-

【表四】のように、「白」の意味種類はネガティブな意味が多い、半分を占めている。日本語と中国語は「白」の比喩的意味の数はほぼ同じ、日中両方もある意味は半分ぐらいを占めて、それぞれ違う意味も半分ぐらいを占めている。【図3】のように示している。また、日本語と中国語の「白」の色と意味の関連性は【図4】のように示している。実物の色と透明、顔が白いの二つの拡張義の三つに大きく分けている。実物から分析できた意味は色と関係がある。透明と顔が白いからの意味分化は人の性格や人事物の純粹のような抽象的な意味である。

【図3】 白の日中関係図



【図4】 白の意味関連図



【表五】赤の比喩的意味比較

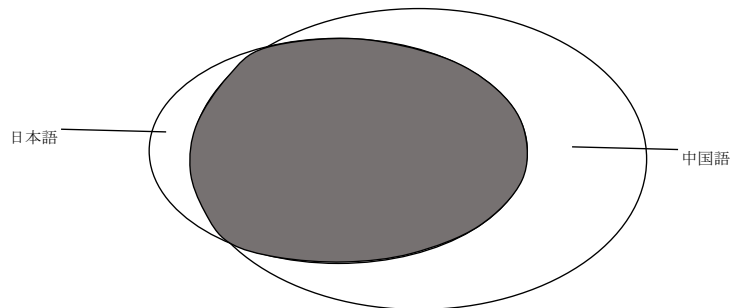
意味項目	おめでたい	熟成する	血	危険	お金、利益	安売り
日本語	○	○	○	○	×	○
中国語	○	○	○	○	○	×
意味傾向	+	+	-	-	+	中性
意味項目	成功する	人気がある	花	女性	純粹	損失
日本語	×	×	○	○	○	○
中国語	○	○	○	○	○	○
意味傾向	+	+	中性	中性	+	-
意味項目	恥ずかしい	嫉妬する	怒る			
日本語	○	×	×			
中国語	○	○	○			
意味傾向	△	-	-			

【表五】のように、「赤」の意味種類はネガティブとポジティブな意味の数がほぼ同じである。日中両言語にも意味が少なくないが、中国語での意味は日本語と比べて多いことが見える。その関係は【図5】のように示している。

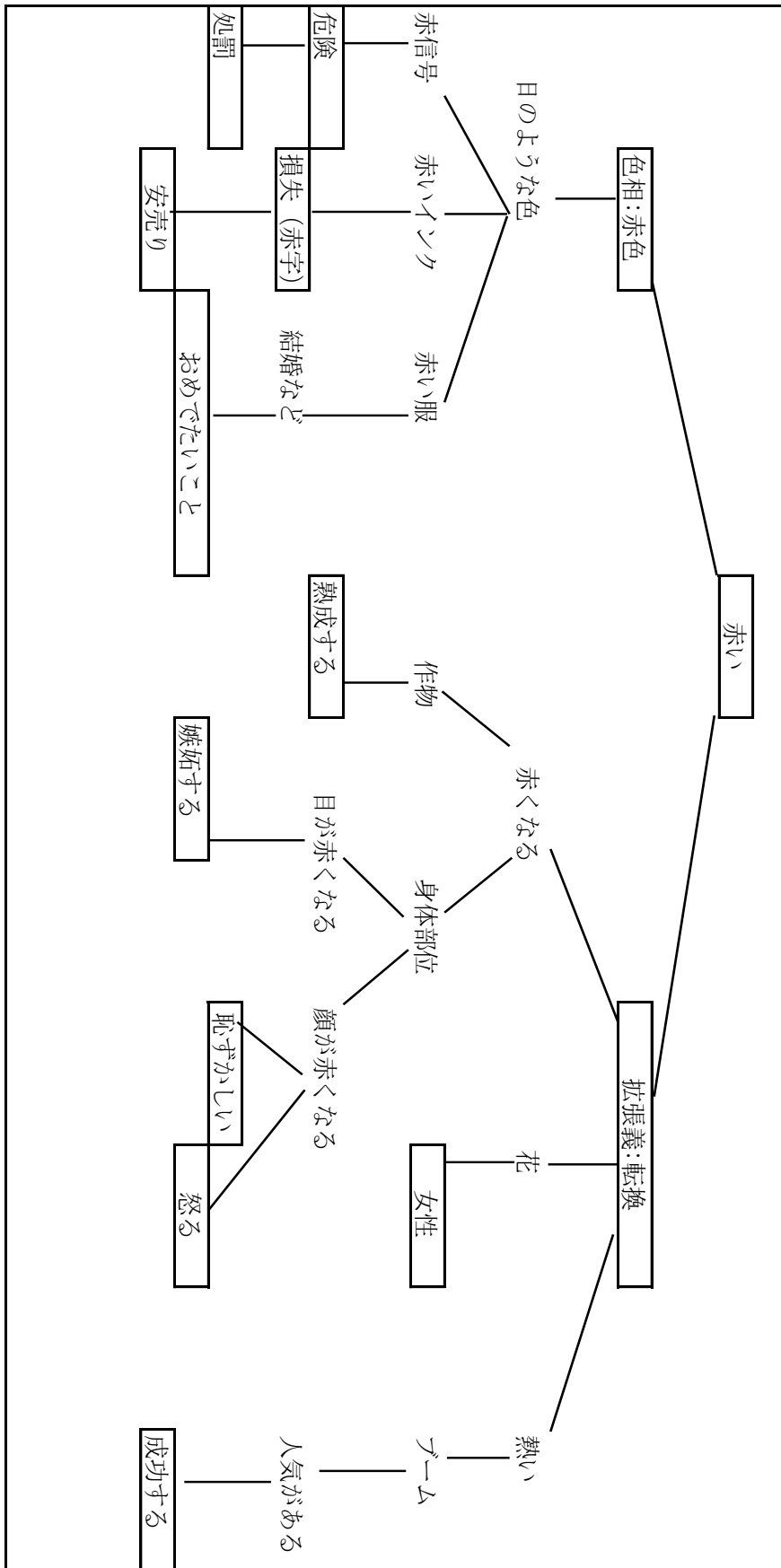
赤色と意味はどのように関連しているのかは【図6】のように示している。

「赤」は人の身体部位からの意味分化はよく人の情緒を表す。また、赤い信号のような世界共通のことから危険警告の意味、自然と関わる作物の色から熟成する意味もある。さらに、黒、白と違い、日のような赤は人に熱いイメージも与えるため、中国語の意味にもこの温度から分化した「成功する」意味も出てくる。

【図5】赤の日中関係図



【図6】赤の意味関連図



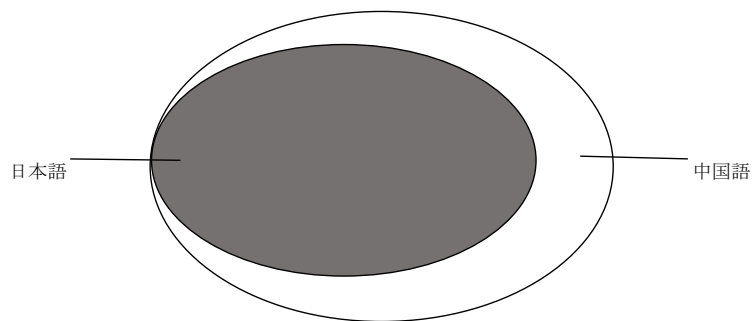
【表六】 青の比喩的意味比較

意味項目	未成熟	怒る	病的	東	浮気	好ましい
日本語	○	○	○	×	×	×
中国語	○	○	○	○	○	○
意味傾向	中性	-	-	中性	-	+
意味項目	完成する	永存する	春	安全	恐怖	経験がない
日本語	×	×	○	○	○	○
中国語	○	○	○	○	○	○
意味傾向	+	+	中性	+	-	-

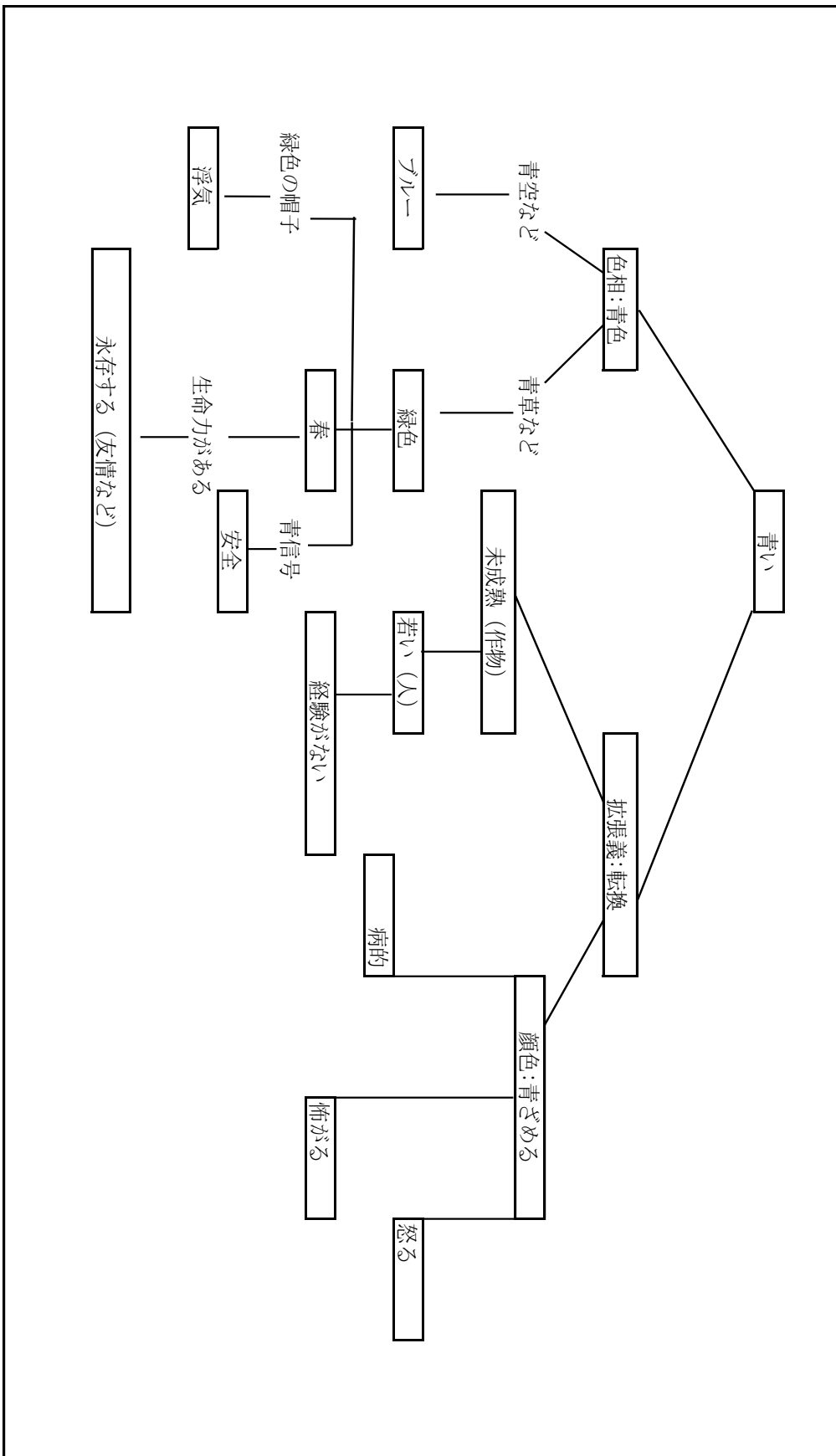
【表六】のように、日本語と中国語が「青」についての比較から、日本語の意味は全部中国語に含まれていて、中国語の語義範囲が広いことが分かる。【図7】のように示している。意味種類はネガティブな意味の方が多い。

「青」の青色と拡張義の関連は【図8】のように示している。この意味関連図から見れば、「青」は言語表現では「緑色」を指す場合が多い。また、「青」の意味拡張は自然と季節との関連性が強い。春の色や作物が未成熟の緑色から分化して、友情や経験に拡張できた。また、「青」も身体表現、特に顔で使う場合と、人の気持ちを表す場合がほとんどである。

【図7】 青の日中関係図



【図8】 青の意味関連図



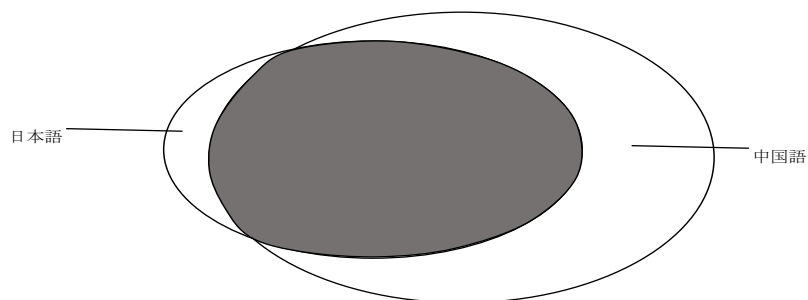
【表七】黄色の比喩的意味比較

意味項目	未成熟	注意する	経験がない	声が高い	成熟する	黄河
日本語	○	○	○	○	○	×
中国語	○	○	○	×	○	○
意味傾向	中性	-	-	中性	中性	中性
意味項目	権力	不健康	年取る	腐敗墮落	失敗する	不正転売
日本語	×	×	○	×	×	×
中国語	○	○	○	○	○	○
意味傾向	+	-	中性	-	-	-

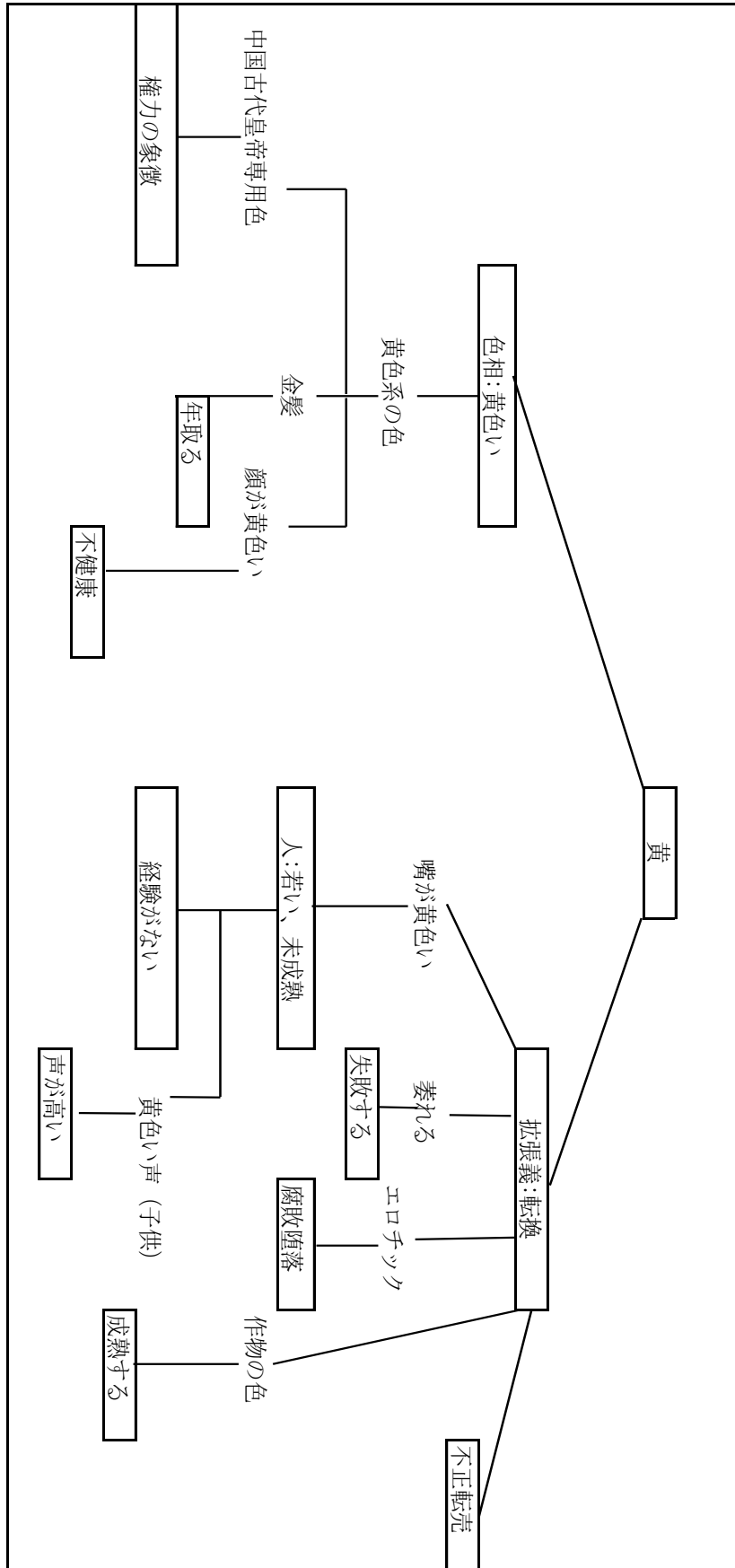
【表七】のように、全体的には「黄色」も同じく中国語の語義範囲が広い。具体的には【図9】のように示している。「黄色い声」の「声が高い」の意味の他に、中国語には全部の意味がある。また、「黄色」は中性的意味とネガティブな意味が多い。ポジティブな意味は一つしかない。

色彩語の「黄色」は色と意味の関連は【図10】のように示す。「黄色」の拡張義は五つに分けている。語義の拡張によって、意味と色の関連性がだんだん弱くなるのが原因だと考える。また、「黄色」も自然の作物の色から分化できた「成熟する」の意味がある。鳥のような動物が小さい頃をあらわすことから人に転じると、若い、経験がないの意味になる。ここから、「黄色」の拡張義は人と自然との関わりが深いと言えると思う。

【図9】黄色の日中関係図



【図 10】黄色の意味関連図



結論

本稿では、基本色彩の「黒、白、赤、青、黄色」に関する色彩語は、日中両言語でどのような意味があるのか、日本語と中国語はどのような差異が見られるか、および色と意味をどのように関連付けるのかについて課題を設定した。分析の過程は主に色彩語の意味、品詞、意味傾向（ポジティブとネガティブ）、色彩語の歴史的意味変遷および語義と色相の関連性の五つの視点から分析を行った。意味は主に色を表す基本義と、色を表すと共に別の意味がある場合や全く色を表さない場合である拡張義に分けた。

最初は先行研究に基づき、意味拡張、比喻、メタファーの理論を理解し、比喻の本体と目標の喩体の間には類似性があり、色彩語の意味と対応する色の間にも必ず関連性があることについて述べた。

次に、中国語の「黒、白、赤、青、黄色」に関する色彩語の意味分析を行った。中国語の色彩語の意味分析は、中国語の辞書『現代汉语词典』と『古代汉语词典』から固有の意味を確定し、そして、中国語のコーパス『現代汉语语料库』と『北京语言大学 BCC 汉语语料库』から例文を選択した。辞書とコーパスを合わせて分析を行った。

さらに、日本語の「黒、白、赤、青、黄色」に関する色彩語の意味分析を行った。日本の色彩語の意味分析は、日本語の辞書『スーパー大辞林 3.0』『新明解国語辞典』『日漢大辞典』から固有の意味を確定し、日本語のコーパス KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」から例文を検索し、辞書とコーパスを合わせて分析を行った。

最後に、各色彩に分けて、日本語と中国語の意味を比べ、樹形図を作成して、色彩語の意味と色彩の関連づけを試みた。

以上の分析を通して、以下のような結論が得られた。

(一) 語義について

- 1、「黒、白、赤、青、黄色」に関する色彩語の拡張意味の数について、全体的に中国語の方が意味が広い。日本語の方はより単純である。そして、日中重なる意味は多いが、それぞれ異なる意味も存在する。
- 2、例文の分析に通じて、中国語と日本語の色彩語も辞書の意味を超えた意味が存在している。このような辞書以外の意味がことわざや慣用句でよく見られる。例えば、「黒」について、中国語の慣用句「白发送黑发」の「白」と「黒」はそれぞれ「お年寄りの人」と「若い人」を指すが、このような意味は辞書には無い。日本語の「黒歴史」の「黒」は「恥」「恥ずかしい」という意味をさすが、辞書には見られない。
- 3、日本語も中国語も、慣用句やことわざにおける色彩語の意味はほとんど比喩的意味である。
- 4、一つの色彩で、言語表現において、ポジティブな意味とネガティブな意味両方もあることがよく見られる。また、正反対の矛盾する意味もある。
- 5、日中基本色彩語の基本義（色だけを表す）は、ほぼ同じであるが、「青」について、中国語では普通「緑」だと見られ、日本語は「ブルー」と「緑」両方使い、

限界は曖昧だと見える。

- 6、色彩語の意味は文脈によって意味が変わることがある。
- 7、日本語と中国語も外来文化の影響により、色彩語の意味が広がった。例えば、英語の「red card」は中国語の「紅牌」、日本語の「レッドカード」に訳され、それを代表する「警告」の意味も共に伝わっている。

(二) 色と意味の関連について

- 1、色彩語の比喩的意味は自然と環境と深く関連している。例えば、「黒」は「光がない」を通して、人の人生や生活に転じると、「絶望」や「悲しみ」のようなメタファー的意味になる。「白」の「汚れがない」は、人に転じると「純粹」「無罪」の意味になる。
- 2、色彩語の比喩的意味は作物の色から転じてきたものが多い。特に「赤」「青」「黄色」はよく季節によって作物の色が違うから、作物の成熟程度を色で表す。次に、人に比喩する。例えば、「青」は作物がまだ未成熟の状態のため、人に転じると「若い、経験がない」という意味に比喩となる。このように、人に転じると、色彩語は全く色を表さない。
- 3、色彩はよく身体表現と共起し、人の心理活動を表す。例えば、中国語の「黒臉（怒るや怖がるなど）」「白臉（怖がる）」「眼紅（嫉妬する）」「臉紅（顔が赤くなる）」などがあり、日本語には「顔が赤くなる」「顔色が青ざめる」などがある。
- 4、色彩語の意味は時代性が見られる。中国の歴史上皇帝を象徴する「黄色い」は現在その意味がなくなり、日本語の共産主義を意味する「赤」も使わなくなった。

本研究は辞書、コーパスおよび樹形図によって、上記の結論を得られた。色彩は視覚で同じ色なのに、言語にすると、日本語と中国語の差異が大きく存在することが本研究でわかった。今後はもっと新しい意味が生じたり、古い意味が使われなくなったりする可能性があると考えられる。

今後の課題として、次のような課題を明らかにしたい。

まず、中国人の日本語学習者は日本語における基本色彩語の意味拡張、特に比喩的意味を正しく識別、理解できるか、またはどのように理解するかを調査すること。

それから、日本人と中国人で色彩に対するイメージはどのような異同があるかを明らかにすること。

最後に、人の色に対するイメージは、色彩語の意味とどのような関係があるのかを検討しさらに深めること

これらを今後の課題として、研究を続けたい。

参考文献

- 1、安安(2018)「現代日本語における類義的な色彩語の研究」『日本語と日本語教育』46, pp111-112
- 2、伊藤眞(2007)「日独形容詞比較研究—色彩を表す形容詞の比喩的意味機能について—」『獨協大学ドイツ学研究』58, pp79-96
- 3、池間里代子(2012)「小説『紅樓夢』の色彩語について」『流通経済大学社会学部論叢』22-2, pp137-163
- 4、小野寺美智子(2018)「時間メタファーへの認知的アプローチ—日本語の時間表現を中心に—」『人文・自然・人間科学研究』39, pp16-31
- 5、小原真子(2016)「英語の色彩語について:コーパスのデータを中心に」『島根大学法文学部紀要. 言語文化学科編』41, pp47-64
- 6、小野文路・堀内隆彦・富永昌治「現代日本人を対象とした色彩語彙の調査と分析」『日本色彩学会誌』34-1, pp2-13
- 7、王軒(2014)「色彩語メタファー表現の特徴: コーパスによる共起語の考察」『言語科学論集』18, pp1-12
- 8、王岩(2008)「中日色彩词对比研究—以“黑、白、红”为中心」, 山東大学, p63
- 9、王晓楠(2013)「汉日情感隐喻对比研究」, 西北師範大学, p52
- 10、片岡宏仁(2012)『言語における意味 意味論と語用論』東京電機大学出版局 pp290-320
- 11、郭晨然(2014)「色彩語彙に関する比喩的表現のイメージの考察—中国語と日本語の基本色を中心に—」『一橋日本語教育研究』2, pp125-130
- 12、韓涛(2015)「概念メタファーの動機付けに関する一考察」『ことばの科学』29 pp79-88
- 13、金福年(2003)「現代汉语颜色词运用研究」, 复旦大学中国语言文学研究所, p163
- 14、魏丽华(2003)「中日文化中的色彩语的隐喻意义」『日语学习与研究』4, pp36-38
- 15、小倉慶郎(2012)「青信号はなぜ緑信号ではないのか—「アオ」の持つメタファーから考える—」『大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究』10, pp13-21
- 16、坂本真樹・内海彰(2007)「色彩形容詞と名詞の相互作用による色彩形容詞メタファーの認知効果」『認知科学』14-3, pp380-397
- 17、朱笑菲・陈建平(2014)「英汉基本颜色词的隐喻认知机制—以“黑、白、红、绿”为例」『现代语文(语言研究版)』10, pp142-144
- 18、熊蕾(2013)「英汉颜色词“黄”“绿”“红”的概念隐喻认知与文化对比分析」『河南广播电视大学学报』1, pp39-43
- 19、鐘勇・井上奈良彦(2012)「メタフォリカル・コンピテンス(MC)研究の現状と問題点及び日本語教育への導入」『言語文化論究』28
- 20、須賀川誠三(2001)『英語色彩語の意味と比喩』成美堂
- 21、須賀川誠三(1992)「中英語色彩語の意味分化—「青色」を表す類義語の場合」『獨協大学英語研究』39, pp61-70
- 22、蘇紅(2013)「色彩語の日中対照研究—赤・黄・黒・白の四色を例として対照する場合—」, 愛知大学中日大辞典編纂所『日中語彙研究』3, pp47-62

- 23、張彬(2006)「比较中日“红”的运用及含义-从语言、文化方面」『外语研究』 pp128-129
- 24、陈婷婷(2015)「基于语料库的英汉颜色词“黄”的隐喻对比」『湖北科技学院学报』4, pp131-133
- 25、张悦(2015)「中日色彩词语语义对比初探—以“黑”、“白”为中心」『现代经济信息』23
- 26、丁丽(2006)「浅析汉语“白”与日语中“白”的比喻意义」『日语知识』10, pp24-25, pp43
- 27、伴浩美・木村春彦・皆川順「日英色彩語に対する連想イメージの調査」『日本知能情報ファジィ学会 ファジィ システム シンポジウム 講演論文集』31, pp405-408
- 28、董玉婷・劉羈(2009)「色彩語「白・黒」の比喻拡張であるメタファー、メトニミーとシネクドキをめぐって-中国語の場合」国際大学 NEAR, pp1-8
- 29、新妻明子(2013)「心的状態を表す英語の色彩語メタファー-認知意味論に基づく意味拡張のプロセス-」『常葉大学短期大学部紀要』44, pp47-62
- 30、任怡昕(2016)「中日色彩词汇及其象征意义的对比研究-以‘青’为中心」『北方文学(下旬)』pp164
- 31、藤井誠(2010)「色彩語彙に関する一考察」『人文学報』431, pp77-88
- 32、松中義大(2018)「現代日本語の色彩語彙に関する調査と分析—メディア芸術系学生の事例—」『東京工芸大学芸術学部紀要』24, pp57-61
- 33、松尾貴哲(2003)「心的表象とメタファー」『神奈川大学大学院言語と文化論集』10, pp107-138
- 34、松本曜(2003)『認知意味論』大修館書店
- 35、村中淑子(2015)「外来語の色彩語について-『青空文庫』パッケージを用いて-」『人間文化研究』3, pp55-83
- 36、靱山洋介(2010)『認知言語学入門』研究社
- 37、森雄一・高橋英光(2013)『認知言語学 基礎から最前線へ』くろしお出版
- 38、山田仁子(2017)「灰色にない gray の要素: 日本語と英語の色彩語カテゴリーの比較」『徳島大学英語英文学会』63, pp1-10
- 39、山田仁子(2010)「カテゴリーを形成する2種のベクトル: 「真(ま)+色彩語彙」表現の分析」『言語文化研究』18, pp115-130
- 40、山梨正明(2015)『修辭的表現論 認知と言葉の技巧』開拓社
- 41、兰卉(2011)「日语色彩词的文化审视—以日语色彩词“青(あお)”为例」『长春教育学院学报』07, pp38-39
- 42、李静晓(2008)「色彩語の意味拡張メカニズムに関する研究-中国語の“赤”“紅”と日本語の「赤」「紅」を中心に-」, 北京外国語大学北京日本学研究中心, 日中韓3か国合同ジョイントゼミ(北京), pp220-223
- 43、李文鑫(2017)「〈情報〉を目標領域とする概念メタファー—メタファーの認定手順の提案とコーパスに基づく分析—」『国際日本研究』9, pp129-146
- 44、李文鑫(2017)「概念メタファー理論に基づくコロケーションの誤用分析—「興味」を例として—」現代日本語研究会『ことば』38, pp83-101

- 45、李哲(2018)「汉语和日语中色彩词的比较」『吉首大学学报(社会科学版)』, pp138-140
- 46、李延波・房红芳(2011)「从跨文化角度对比分析英汉语中黑色的隐喻认知」『湖南科技学院学报』10, pp161-163
- 47、劉渴冰(2005)「中国語色彩語の象徴化」『神奈川大学人文学会誌』156, ppA145-A169
- 48、刘晓航(2008)「中日色彩语对照研究--以“白”为中心」, 辽宁師範大学, p57
- 49、梁娟(2008)「汉语颜色词研究」, 重庆師範大学, p41
- 50、『スーパー大辞林 3.0』三省堂, 2010
- 51、『スーパー大辞林 3.0』(慣用句)三省堂, 2010
- 52、『新明解国語辞典第七版』三省堂, 2012
- 53、『新世纪日汉双解大辞典』外语教学与研究出版社, 2009
- 54、『日汉大辞典』講談社(著)上海译文出版社(訳), 2002
- 55、『现代汉语大词典』上海辞書出版社, 2007
- 56、日本語の例文:『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
- 57、中国語の例文:『现代汉语语料库』
『北京语言大学 BCC 汉语语料库』